

**!** この取扱説明書は、必ずご使用される方にお渡してください。

CF5178K-H001 REV.2

# エバラ自動給水装置

エバラ フレッシュャー1300 **BI** BI-ME

## 取扱説明書



### お願い

このたびは、エバラ自動給水装置をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。当社では、この製品を安心してご使用いただけますよう細心の注意をはらって製作しておりますが、その取扱いを誤りますと思わぬ事故を引き起こすこともありますので、この取扱説明書に従い、正しくご使用くださいますようお願いいたします。

なお、この説明書はお使いになる方がいつでも見ることができる場所に必ず保管してください。

本取扱説明書に掲載した製品及び技術情報については、外国為替及び外国貿易法に定められた貨物や役務に該当する場合があります。

本製品を輸出する場合及び本取扱説明書に掲載した技術情報の国外への持ち出し、または国内外で提供する場合、経済産業大臣の許可が必要となる場合がありますのでご注意ください。

### 設備工事を行う皆様へ

この説明書は、ポンプの操作・保守・点検を行うお客様に必ずお渡してください。



### 目次

① 警告表示について	2	6. 圧カスイッチ又は圧カセンサ、減圧弁の設定	28
② 安全上の注意	3	7. 自動給水装置仕様一覧表	31
③ はじめに	7	・ 過電流設定値一覧	
④ 製品仕様	8	・ チェックシート	
⑤ 据付	9	⑦ 保守	35
1. 据付位置	10	1. 日常の点検	37
2. 配管	11	2. 圧カスイッチ(圧カセンサ)の再調整について	38
3. 電気配線	13	3. 減圧弁の再調整について	38
⑥ 運転	15	4. 圧カタンクの空気充填方法	39
1. 単独運転の場合	15	5. 給水装置の長期運転休止時、保管時について	39
2. 単独交互運転及び並列交互運転の場合(標準 3.7kW 以下)	17	6. 消耗品について	40
3. 単独交互運転及び並列交互運転の場合(標準 5.5kW 以上, 特殊仕様)	20	⑧ 故障の原因と対策	42
4. 単独交互/並列交互運転形の制御盤表示及び設定に関する操作(標準 3.7kW 以下)	23	⑨ 構造	43
5. 単独交互/並列交互運転形の制御盤表示及び設定に関する操作(標準 5.5kW 以上, 特殊仕様)	25	1. 運転方式	43
		2. 部品名称	44
		3. 標準附属品	44
		⑩ 保証	45
		⑪ 修理・アフターサービス	45

## 1 警告表示について



ここに示した注意事項は、本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取扱いをすると生じることが想定される危害や損害内容を「警告」「注意」に区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

### 表示の説明















警告用語	意 味
 <b>警 告</b>	取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定される場合に使用します。
 <b>注 意</b>	取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定される場合に使用します。


<b>注 記</b>	とくに注意を促したり、強調したい情報について使用します。
------------	------------------------------


### 図記号の説明


	禁止（してはいけないこと）を表示します。 具体的な禁止内容は、記号の中や近くに絵や文章で指示します。
	強制（必ずすること）を表示します。 具体的な強制内容は、記号の中や近くに絵や文章で指示します。

## 2 安全上の注意

 <b>警告</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 給水装置の取扱い及び施工は、質量や形状に配慮し、安全に作業してください。落下及びけがの危険があります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 給水装置の取扱い及び施工は、専門技術者により、適用される法規定（電気設備技術基準、内線規程、建築基準法等）に従って正しく行ってください。法規定に反するだけではなく、感電・火災・けがなどの事故を発生する恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 取扱い液や設置場所、電源等仕様から外れた範囲では、ご使用にならないでください。ポンプ故障や漏電、けがや感電、または火災の原因になります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 屋外カバー付きの場合を除き、屋外あるいは被水する場所には設置しないでください。また、屋外カバー付きの場合でも、強い風雨の当たる場所は避けてください。絶縁低下などにより、漏電・感電・火災の原因になります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機器の寿命を考慮し、設置は風通しがよく、ほこり・腐食性及び爆発性ガス・塩分・湿気・蒸気・結露などがなく、風雨や直射日光の当たらないところを選んでください。悪環境下では、電動機・制御盤の絶縁低下などにより、漏電・感電・火災の原因になります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 給水装置は、ポンプ室・機械室などの鍵の掛かる場所に設置して下さい。給水装置を屋外に設置する場合は、第三者が容易に触れないように、柵や囲いを設けてください。回転部・高温部などに触れ、思わぬけがをする恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 吊上げ状態での使用及び作業は危険ですので、絶対に行わないでください。落下及びけがの危険があります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 製品の移動に際しては、吊上げ要領（注意銘板）などに従って、慎重に作業してください。落下及びけがの恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎ボルトで給水装置を確実に固定してください。給水装置が転倒して、けがをする恐れがあります。また、給水装置の振動により、配管などを破損する恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電動機・制御盤には、水をかけないでください。感電・漏電・火災や故障の原因になります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 配線工事は、電気設備技術基準、内線規程に従って、専門技術者により正しく行ってください。配線の端子のゆるみがないことをご確認ください。無資格者による誤った配線工事は、法律違反だけでなく、感電や火災を起こす恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 接地工事は、必ず行ってください。故障や漏電の時に感電する恐れがあります。緑色の線は接地線です。絶対電源につながらないでください。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本製品専用に漏電遮断器を設置してください。漏電警報出力付配線用遮断機を取付ける事を推奨致します。感電や火災を起こす恐れがあります。</li> </ul>	

 <b>警告</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポンプの運転中に、主軸などの回転部分には触れないでください。また、ポンプが停止中であっても電源スイッチが入っているときは、自動運転により急にポンプが運転をする場合がありますので、主軸などの回転部分には触れないでください。高速回転をしていますので、けがをする恐れがあります。</li> </ul>	⊘
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電動機の結線部と制御盤の一次側及び二次側や、制御盤内の動力部機器の接続部・結線部にゆるみのないことを確認し、ほこりを除去してください。配線接続部のゆるみによる接続不良、端子部へのほこりの付着などを放置すると、発熱して、火災事故の危険があります。</li> </ul>	❗
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験運転時は、必ず水栓を開き、ポンプの口径分の水量（例 口径50:50L/min）以上で運転してください。ポンプがエアロックを起こしたり、ポンプ内圧や温度が上昇し、ポンプが損傷する恐れがあります。</li> </ul>	❗
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吐出し弁を閉じたまま、ポンプを1分間以上運転しないでください。ポンプ内圧上昇や温度上昇により、ケーシングやプラグなどの破損、電動機焼損の恐れがあります。</li> </ul>	⊘
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポンプ・電動機・制御盤などの付近には、危険物や燃え易いものを置かないでください。発火したり延焼し、火災の恐れがあります。</li> </ul>	⊘
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通電状態にて、充電部には触らないでください。感電の恐れがあります。</li> </ul>	⊘
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理はしないでください。感電・発火または異常動作・破損などにより、けがをすることがあります。</li> </ul>	⊘
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポンプを分解・組立する時は、必ず電源スイッチを切ってください。自動運転などで、急にポンプが始動して、けがをすることがあります。</li> </ul>	❗
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分解・点検の際には、吸込、吐出し弁を閉じてケーシングドレンから排水し、ポンプ内の圧力上昇や負圧の発生が無いようにしてから行ってください。この作業が不完全ですと、吸込と吐出しの圧力差により、ポンプが異常回転となり、ケーシングが破壊する恐れがあります。</li> </ul>	❗
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・樹脂部品は、現場で焼却しないでください。燃やすと、有害なガスを発生する恐れがあります。</li> </ul>	⊘
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当社純正以外の部品の取付けや改造は、行わないでください。感電・発火または異常動作・破損などにより、けがをすることがあります。また、正常な機能を発揮できない場合があります。</li> </ul>	⊘
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制御盤内には電子機器を使用していますので、絶縁抵抗試験（メガテスト）や、耐電圧試験を行わないでください。電子機器が破損、あるいは発火する恐れがあります。</li> </ul>	⊘
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絶縁抵抗値が1MΩ以下に低下した場合は、すぐに電源スイッチを切り、ご注文先、もしくは当社に、点検・修理をご依頼ください。電動機が焼損したり、感電や火災を起こす恐れがあります。</li> </ul>	❗
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圧力スイッチや、圧力センサは、定期的に点検してください。故障するとポンプが停止しなくなり、ポンプ内圧が上昇し、ケーシング等が破壊する恐れがあります。</li> </ul>	❗
<ul style="list-style-type: none"> <li>・運転を休止する場合は、電源スイッチを切ってください。絶縁劣化し、感電や漏電・火災の原因になります。</li> </ul>	❗	


 <b>注意</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 50Hz 仕様のポンプを、60Hz で運転しないでください。過大圧力によるポンプなどの破損、過負荷による電動機などの焼損事故につながります。</li> </ul>	⊘
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食品加工・食品移送等の用途には使用できません。雑菌の発生や異物が混入する恐れがあります。</li> </ul>	⊘
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 銅合金をきらう生物への使用は避けてください。生物の寿命が著しく短くなる恐れがあります。</li> </ul>	!
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 万一のポンプの停止に備え、ポンプの予備機を設置してください。断水し、設備が停止する恐れがあります。特に、重要設備（コンピューター冷却設備・冷凍庫冷却設備など）や、生き物（養魚場・生け簀・水族館など）の設備に使用する場合は、予備機を必ず準備してください。</li> </ul>	!
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 製品製造時及び配管系に含まれる、切削油・ゴムの離型剤・異物などが取扱い液に混入しますので、設備によっては吐出側に用途に応じた適切なフィルタなどを設け、十分フラッシングを行い、異物がないことを確認後ご使用ください。</li> </ul>	!
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水以外の液体・油・海水・有機溶剤などには使用しないでください。ポンプが故障し、漏電や感電の原因となります。</li> </ul>	⊘
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期的に保護継電器の動作確認を行ってください。事故時に正常動作せず、感電や故障の恐れがあります。</li> </ul>	!
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポンプ・バルブ・配管などからの異常な水漏れに備え、設置場所には排水・防水処理を行ってください。異常な水漏れにより、大きな被害につながる恐れがあります。</li> </ul>	!
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 故障・減水などの警報は、常時管理人のいる場所にブザーなどを設け確認出来るようにしてください。事故発生時、気が付かずにより重大事故につながる恐れがあります。</li> </ul>	!
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 据付け点検などの作業を行う前に、給水装置周辺を整理してください。滑ったり、つまずいたりして、けがをする恐れがあります。</li> </ul>	!
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポンプ・電動機・制御盤などの機器の上には、乗らないでください。製品の破損や、滑ったり、踏み外したりして、けがをする恐れがあります。</li> </ul>	⊘
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電動機・制御盤に、毛布や布などをかぶせないでください。過熱して発火することがあります。</li> </ul>	⊘
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 制御盤内に、物を入れないでください。火災が発生する恐れがあります。</li> </ul>	⊘
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 導電部の接続ネジの締め付けは、確実に行ってください。発熱や故障及び焼損の恐れがあります。</li> </ul>	!
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電動機の端子の接続が、緩んだり外れたりしていないかを確認してください。一箇所でも緩んだり外れたりしていると、欠相運転(三相電動機の場合)になり、電動機が焼損します。</li> </ul>	!
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 配線接続作業などで取り外した端子カバーは、必ず元通りに取付けてください。感電やけがの恐れがあります。</li> </ul>	!
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電気配線を傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、振ったり、束ねたり、また、重い物を載せたり、挟み込んだりしないでください。火災・漏電の原因となります。</li> </ul>	⊘
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水位信号線と動力線を、同一電線管に収納しないでください。ノイズにより誤動作する恐れがあります。</li> </ul>	⊘
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電極棒や圧力センサ・圧力スイッチなどには、絶縁抵抗測定を行わないでください。電子機器を搭載または電子機器に接続されており、故障の原因になります。</li> </ul>	⊘
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 制御盤には電子機器を搭載しておりますので、耐電圧・絶縁抵抗試験を行わないでください。制御盤の故障の原因となります。</li> </ul>	⊘



 <b>注意</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電動機の絶縁抵抗試験を行うときは、配線を制御盤から外し、電源電圧に合った絶縁抵抗計を用いて絶縁抵抗を測定し、電動機リード線とアース間が5MΩ以上あることを確認してから、配線を行ってください。電動機が焼損したり、感電や火災を起こす恐れがあります。</li> </ul>	!
	<ul style="list-style-type: none"> <li>故障と思われる場合は、すぐ電源スイッチを切り、ご注文先、もしくは当社に必ず点検・修理をご依頼ください。誤った操作や作業により、事故が発生する恐れがあります。</li> </ul>	!
	<ul style="list-style-type: none"> <li>電動機・制御盤（操作部を除く）や凍結防止ヒータには触れないでください。高温になっていますので、やけどの原因になります。</li> </ul>	⊘
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポンプ内は、必ず空気を排出し、取扱い液で満たしてください。空気が混入したまま運転すると、ドライ運転になり、ポンプが破損します。</li> </ul>	!
	<ul style="list-style-type: none"> <li>空運転または、取扱い液中に空気を混入させないでください。ケーシング・軸受・軸封などが破損したり、揚水不能になる恐れがあります。またポンプが過熱し、やけどの原因になります。</li> </ul>	⊘
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポンプ吸込配管の吸込口に近づかないでください。ポンプが運転すると、手足などが吸込まれて、けがをする恐れがあります。</li> </ul>	⊘
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポンプが高温になっている場合は、呼水栓を開けないでください。熱湯が噴出し、やけどの原因になります。</li> </ul>	⊘
	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種切替スイッチのモードは、正しく設定してください。不動作による設備の2次被害や、故障の恐れがあります。</li> </ul>	!
	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子サーマルの設定は、正しく設定してください。誤動作や故障の恐れがあります。</li> </ul>	!
	<ul style="list-style-type: none"> <li>配管内の水を排水後は、電源を絶対に入れないでください。ドライ運転となり、ポンプが破損したり、過熱してやけどの原因になります。</li> </ul>	⊘
	<ul style="list-style-type: none"> <li>運転を休止する場合は、ポンプ内や配管内の水を抜いて、開口部を遮蔽してください。滞留水が腐敗し、雑菌が流出する恐れがあります。</li> </ul>	!
	<ul style="list-style-type: none"> <li>休止後の運転開始時には、「据付」「運転」の項に従い、試運転を実施してください。ポンプの拘束、電動機焼損、空運転などの恐れがあります。</li> </ul>	!
	<ul style="list-style-type: none"> <li>消耗部品は、定期的に交換を行ってください。劣化・摩耗したままご使用になると、水漏れや焼付き・破損などの重大故障につながります。定期点検、部品交換などは、ご注文先、もしくは当社にご依頼ください。</li> </ul>	!
	<ul style="list-style-type: none"> <li>電動機の分解が必要なときは、ご注文先、もしくは当社に必ず点検・修理をご依頼ください。誤った作業により、事故が発生する恐れがあります。</li> </ul>	!
	<ul style="list-style-type: none"> <li>圧力タンク内の封入圧は、必ず6ヶ月毎に点検してください。圧力タンク内の封入圧が低下すると、ダイヤフラムが破損するなど、重大な事故が発生する恐れがあります。</li> </ul>	!
	<ul style="list-style-type: none"> <li>圧力タンクは、3年毎に交換してください。</li> <li>受水槽の洗浄液・消毒液は、絶対にユニット内に入れないでください。取扱い液の遊離残留塩素濃度が、仕様より高い場合など、交換の目安より早期に、ダイヤフラムが劣化する場合があります。</li> </ul>	!
<ul style="list-style-type: none"> <li>冬季などで凍結の恐れがある場合は、保温・ヒータ取付け・排水などにより凍結防止を行ってください。ポンプ停止中に、内部の水が凍結してポンプや配管が破損する恐れがあります。</li> </ul>	!	
<ul style="list-style-type: none"> <li>圧力センサの始動圧力を変更する場合は、必ず減圧弁も再設定してください。</li> <li>減圧弁の設定圧力は、始動圧力より0.029MPa(0.3kgf/cm<sup>2</sup>, 3m)高い値にして下さい。始動圧力のみを変更したり、減圧弁の設定を誤ると、誤動作し、給水装置が故障する場合があります。</li> </ul>	!	

### 3 はじめに

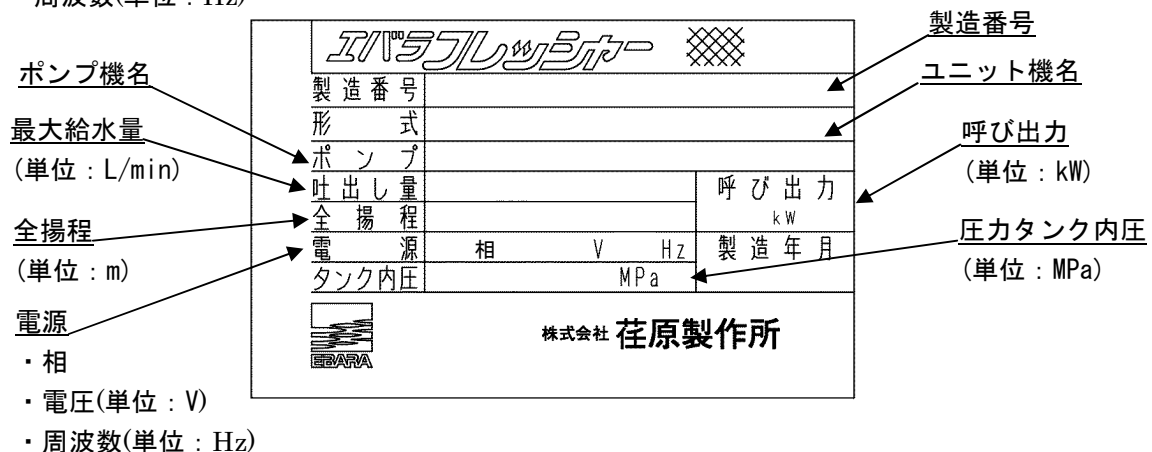
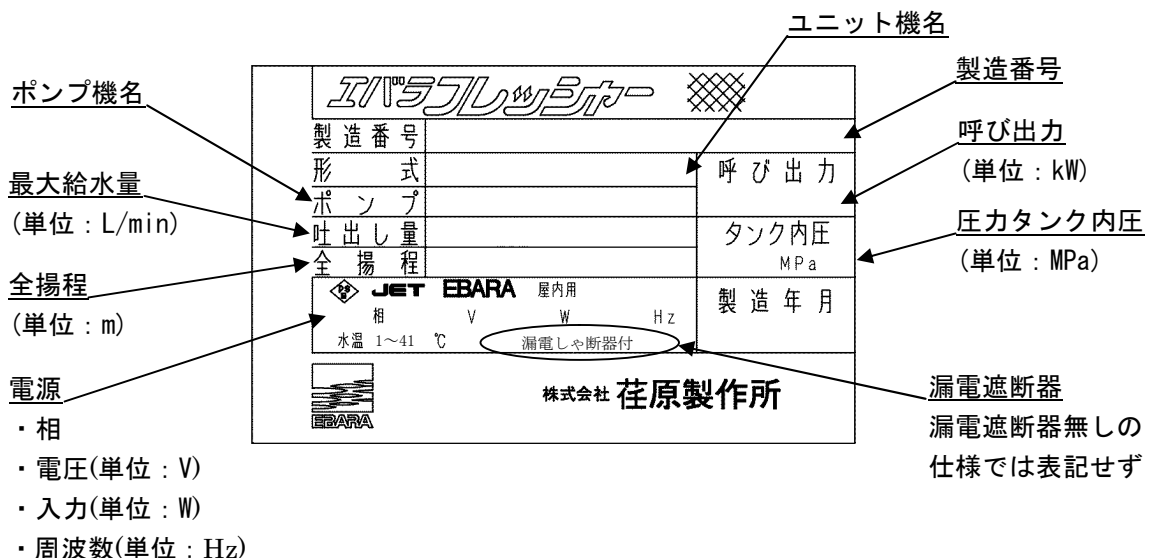
標準品をお買い上げのお客様は、標準仕様の欄を参照してください。その他に、お客様のご希望により特殊仕様として仕様変更したものもあります。仕様から外れた範囲ではご使用にならないようお願いいたします。

製品がお手元に届きましたら、すぐに下記の点をお調べください。

- ご注文通りのものかどうか、銘板を見てご確認ください。  
(呼び出力、相、電圧、周波数、型式は必ずご確認ください。)
- 輸送中の事故で破損箇所がないかどうか、ボルトやビスがゆるんでいないかどうか、ご確認ください。
- 付属品がすべてそろっているかどうか、ご確認ください。  
(付属品は、 「構造」の項をご参照ください。)

 <b>注意</b>	・ 50Hz 仕様のポンプを、60Hz で運転しないでください。過大圧力によるポンプなどの破損、過負荷による電動機などの焼損事故につながります。	
---	--	---

















<b>注記</b>	・ 60Hz 仕様のポンプを 50Hz で運転すると、ポンプの性能が不足します。
-----------	--



## 4 製品仕様

お買い上げいただきました給水装置の最大給水量、全揚程、電圧、周波数、電動機出力などの性能は銘板をご参照ください。その他の仕様を次の表に示します。

本取扱説明書に使用の圧力単位は、国際単位系(SI)によるもので、{ }内は参考値として併記したものです。

 <b>警告</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>給水装置の取扱い及び施工は、専門技術者により、適用される法規定（電気設備技術基準、内線規程、建築基準法等）に従って正しく行ってください。法規定に反するだけではなく、感電・火災・けがなどの事故を発生する恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>取扱い液や設置場所、電源等仕様から外れた範囲では、ご使用にならないでください。ポンプ故障や漏電、けがや感電、または火災の原因になります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>屋外カバー付きの場合を除き、屋外あるいは被水する場所には設置しないでください。また、屋外カバー付きの場合でも、強い風雨の当たる場所は避けてください。絶縁低下などにより、漏電・感電・火災の原因になります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>接地工事は、必ず行ってください。故障や漏電の時に感電する恐れがあります。緑色の線は接地線です。絶対電源につながないでください。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>機器の寿命を考慮し、設置は風通しがよく、ほこり・腐食性及び爆発性ガス・塩分・湿気・蒸気・結露などがなく、風雨や直射日光の当たらないところを選んでください。悪環境下では、電動機・制御盤の絶縁低下などにより、漏電・感電・火災の原因になります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>給水装置は、ポンプ室・機械室などの鍵の掛かる場所に設置して下さい。給水装置を屋外に設置する場合は、第三者が容易に触れられないように、柵や囲いを設けてください。回転部・高温部などに触れ、思わぬけがをする恐れがあります。</li> </ul>	
 <b>注意</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食品加工・食品移送等の用途には使用できません。雑菌の発生や異物が混入する恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>銅合金をきらう生物への使用は避けてください。生物の寿命が著しく短くなる恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>万一のポンプの停止に備え、ポンプの予備機を設置してください。断水し、設備が停止する恐れがあります。特に、重要設備（コンピューター冷却設備・冷凍庫冷却設備など）や、生き物（養魚場・生け簀・水族館など）の設備に使用する場合は、予備機を必ず準備してください。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要設備（コンピューター冷却設備・冷凍庫冷却設備など）に使用する場合は、予備機を必ず準備してください。ユニット故障により断水し、設備が停止する恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品製造時及び配管系に含まれる、切削油・ゴムの離型剤・異物などが取扱い液に混入しますので、設備によっては吐出側に用途に応じた適切なフィルタなどを設け、十分フラッシングを行い、異物がないことを確認後ご使用ください。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>水以外の液体・油・海水・有機溶剤などには使用しないでください。ポンプが故障し、漏電や感電の原因となります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>冬季などで凍結の恐れがある場合は、保温・ヒータ取付けや、排水などにより凍結防止を行ってください。ポンプ停止中に、内部の水が凍結して、ポンプや配管が破損する恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に保護継電器の動作確認を行ってください。事故時に正常動作せず、感電や故障の恐れがあります。</li> </ul>	









標準仕様			
運転方式	単独	単独交互	並列交互
ユニット型式	BISME	BIRME	BIPME
制御方式	減圧弁による吐出し圧力一定制御		
設置場所	屋内 周囲温度 0~40℃、相対湿度 85%以下（結露なきこと）、標高 1000m以下 腐食性及び爆発性ガス、蒸気がないこと		
取扱液	清水（pH：5.8~8.6）※1 0~40℃ 本ユニットは水道法による「給水装置の浸出性能基準」に適合します。		
吸込条件 ※2	吸上げ・流し込み兼用 (1) 吸上げで使用の場合 吸込全揚程-6m以内 吸込実揚程-4.5m以内 (2) 流し込みで使用の場合の許容押込圧力 ① 下記②以外の機種 0.78-締切圧力[MPa] (8-締切圧力[kgf/cm <sup>2</sup> ]) ② 40-55.5, 50-55.5, 50-57.5 40-65.5, 50-65.5, 50-67.5 及び、口径 65 の各機種 (“-”には、BIRME 等の型式名が入ります。) 0.98-締切圧力[MPa] (10-締切圧力[kgf/cm <sup>2</sup> ])		
ポンプ	MDPE 型ステンレス製多段うず巻きポンプ		
使用電源	0.4kW : 単相・100V (50/60Hz) 0.6kW : 単相・200V (50/60Hz) 0.4~7.5kW : 三相・200V(50Hz) / 200, 220V (60Hz)	電源電圧変動： ±5%以内 電源周波数変動： ±2%以内 電源電圧、周波数の同時変動： 双方絶対値の和が 5%以内 相間電圧アンバランス： 2%以内 ただし、いずれの場合も電動機の特 性、温度上昇などは、定格値に準じません。	
圧力タンク	BT-10 型圧力タンク		
主回路開閉器	電磁接触器	トライアック/SSC(ソリッドステートコンタクタ)	
電動機保護装置	サーマルリレー(手動復帰形)	電子サーマル(手動復帰形)	













※1 清水とは、水道水・工業用水・井戸水で水温 0~40℃、pH5.8~8.6、遊離残留塩素濃度 1mg/L 以下、塩素イオン濃度 200mg/L 以下、砂等の異物の混入がないものを意味します。

※2 ポンプの吸込全揚程は、水温 20℃にて表示してあります。この温度と異なる場合、吸込性能が低下しますので当社にご相談ください。

<b>注 記</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご使用環境に応じた期間で、補修塗装を実施してください。ネジ部、防錆剤を塗布した加工部、錆止め塗装部などは、高湿度・結露・被水などのご使用環境で、錆を発生する場合があります。</li> </ul>
------------	--

## 5 据 付

 <b>警告</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>給水装置の取扱い及び施工は、質量や形状に配慮し、安全に作業してください。落下及びけがの危険があります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>吊上げ状態での使用及び作業は、危険ですので絶対に行わないでください。落下及びけがの危険があります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品の移動に際しては、吊上げ要領（注意銘板）などに従って、慎重に作業してください。落下及びけがの恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>屋外カバー付きの場合を除き、屋外あるいは被水する場所には設置しないでください。また、屋外カバー付きの場合でも、強い風雨の当たる場所は避けてください。絶縁低下などにより、漏電・感電・火災の原因になります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎ボルトで給水装置を確実に固定してください。給水装置が転倒して、けがをする恐れがあります。また、給水装置の振動により、配管などを破損する恐れがあります。</li> </ul>	

 警告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機器の寿命を考慮し、設置は風通しがよく、ほこり・腐食性及び爆発性ガス・塩分・湿気・蒸気・結露などがなく、風雨や直射日光の当たらないところを選んでください。悪環境下では、電動機・制御盤の絶縁低下などにより、漏電・感電・火災の原因になります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 給水装置は、ポンプ室・機械室などの鍵の掛かる場所に設置して下さい。給水装置を屋外に設置する場合は、第三者が容易に触れられないように、柵や囲いを設けてください。回転部・高温部などに触れ、思わぬけがをする恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 制御盤には、水をかけないでください。感電・漏電・火災や故障の原因になります。</li> </ul>	
 注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポンプ・バルブ・配管などからの異常な水漏れに備え、設置場所には排水・防水処理を行ってください。異常な水漏れにより、大きな被害につながる恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 故障・減水などの警報は、常時管理人のいる場所にブザーなどを設け確認出来るようにしてください。事故発生時、気が付かずにより重大事故につながる恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 据付や点検などの作業を行う前に、給水装置周辺を整理してください。滑ったり、つまずいたりして、けがをする恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポンプ・電動機・制御盤などの機器の上には、乗らないでください。製品の破損や、滑ったり、踏み外したりして、けがをする恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電動機・制御盤に、毛布や布などをかぶせないでください。過熱して発火することがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 冬季などで凍結の恐れがある場合は、保温・ヒータ取付けや、排水などにより、凍結防止を行ってください。ポンプ停止中に、内部の水が凍結して、ポンプや配管が破損する恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 製品製造時及び配管系に含まれる、切削油・ゴムの離型剤・異物などが取扱い液に混入しますので、設備によっては吐出側に用途に応じた適切なフィルタなどを設け、十分フラッシングを行い、異物がないことを確認後ご使用ください。</li> </ul>	

## 1. 据付位置

- (1) この給水装置は屋内設置用です。機器の寿命を考慮し、風雨や直射日光の当たらない場所をお選びください。屋外に設置される場合は、別途屋外カバー（特別附属品）や丈夫なポンプ小屋をご用意ください。内部の温度上昇を避けるため、適切な換気ができるようにしてください。ただし、建物の屋上など、風雨・風雪が強く当たる場所に設置される場合には、直接屋外カバーに風雨・風雪が当たらないよう、防風壁を設けるなど、対策を行ってください。雨水が通気口より侵入して、電気部品の絶縁低下・漏電・感電の恐れがあります。強風によるカバーの破損や飛散により、物的損害や人的被害の恐れがあります。
- (2) なるべく風通しが良く、ほこり及び湿気の少ないところを選んでください。機器内部に塵埃が堆積し、絶縁低下の恐れがあります。周囲に水溜り等があると、機器内部で結露をし、絶縁低下・漏電・感電の恐れがあります。周囲温度が40℃以下となる場所をお選びください。
- (3) 保守点検が容易にできる場所を、お選びください。
- (4) 関係者以外の方が給水装置に近づけぬよう、囲いを設けるなどの対策を施してください。
- (5) 給水装置はできるだけ水源に近く、吸込高さ（吸込液面からポンプ中心までの高さ）が低く、かつ吸込配管の長さが短くなる所に据え付けてください。
- (6) 給水装置は、基礎の上に、強固に取り付けてください。不安定な取り付けは、故障の原因となります。
- (7) 冬季に凍結の恐れのある場合、配管、圧力センサ（または圧力スイッチ）、タンク、ポンプ等に、必ず防寒対策を行ってください。
- (8) ポンプ室の扉および壁材は、遮音効果の高いものを使用してください。特に騒音が問題となる場合、吸音材などの防音対策を施してください。
- (9) 給水装置の基礎の周囲には、排水用の溝を、設けてください。

(10) 給水装置の設置に当たっては、所轄の水道局の施工基準に従ってください。

<b>注 記</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>据付後、不要となりました梱包材、及び点検・修理などで廃品となりました潤滑油脂類や、部品などは、専門の業者へ処置を依頼して戴くなど、法規及び御使用地域の規制に従って、処分してください。</li> </ul>
------------	---

## 2. 配管

- (1) 相フランジは、配管にねじ込んだ後、給水装置に取付けてください。また、耐圧力が十分な配管を、ご使用ください。
- (2) 配管材質は、赤水対策品を使用し、給水装置に吸込配管、吐出し配管の荷重がかからないよう、十分な配管支持をしてください。
- (3) ポンプ2台の場合は、吸込配管を必ず別々に設けてください。
- (4) 分解点検時に便利なように、吐出し側には仕切弁を必ず取付けてください。
- (5) 流し込みの場合（図1）

- (a) 吸込配管は、なるべく短く、かつ曲りを少なくしてください。
- (b) 吸込配管の末端には、異物などを吸込まぬように、ストレーナを取付けてください。
- (c) 分解点検に便利なように、吸込配管に仕切弁を設けることを、お奨めします。

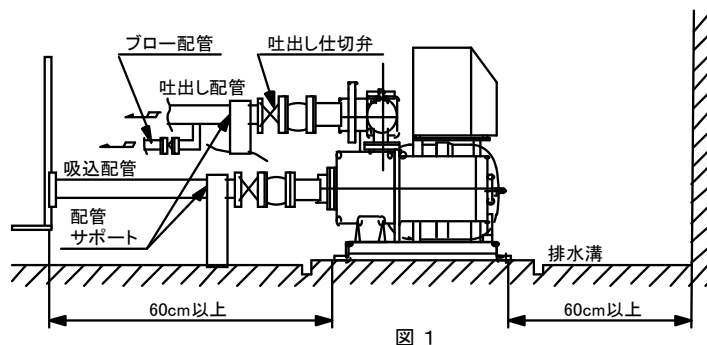


図 1

### (6) 吸上げの場合（図2）

- (a) 吸込配管の末端は、受水槽最低水位より管径(D)の2倍以上深く、また、底及び側面より1~1.5D以上離してください。
- (b) 吸込配管の末端には、異物などを吸込まぬよう、ストレーナ付フット弁を取付けてください。
- (c) 吸込配管は、空気だまりができないようにポンプに向かって上り勾配(1/100以上)に、また、空気を吸い込まないように、継手などは入念に取付けてください。

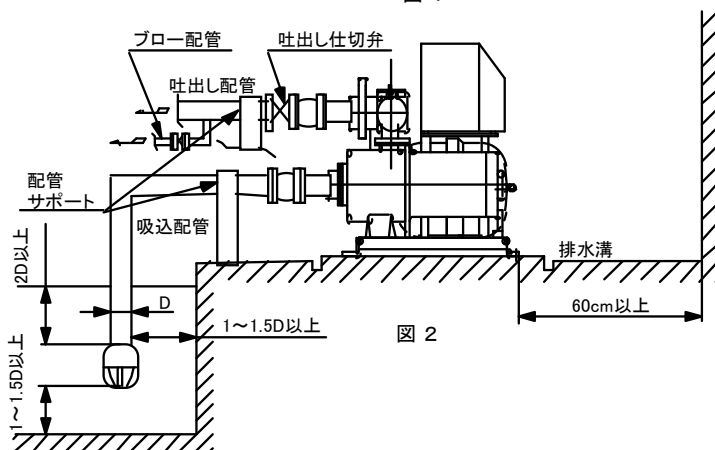
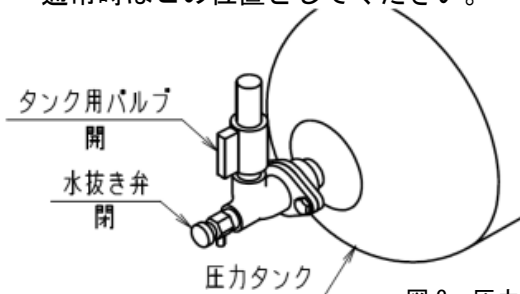


図 2

- (d) 吸込配管はなるべく短く、かつ曲りを少なくし、仕切弁は設けないようにしてください。

(7) 点検時に便利なように、吐出し配管側にブロー配管を設けることをお奨めします。

・通常時はこの位置としてください。



### ・ドレン配管を施工する場合

水抜き弁を外し、ドレン配管(3/8B)を施工してください。ドレン配管には、ドレン弁を設けてください。ドレン配管は排水溝に導いてください。

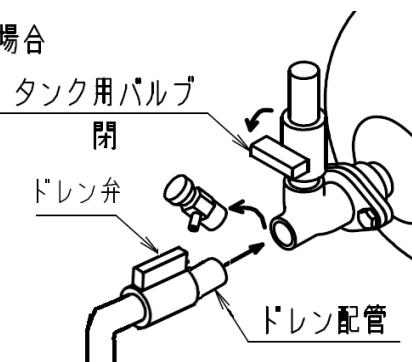















図 3 圧力タンク用ドレン配管の施工方法

配管の良い例・悪い例を具体的に示します。

良い例	悪い例	理由
		<p>(吸込配管の兼用)                      ポンプの維持管理に必要ですので、流し込みの配管の場合は、必ず吸込配管部にバルブを設けてください。吸込配管の兼用は、1台運転中に、停止のポンプの吸込部が負圧になり、配管部分、ポンプ部分より空気を吸い込む場合がありますので、必ずポンプごとに専用にしてください。</p>
		<p>(吸込配管)                      吸上げの場合は、吸込配管にバルブを設けると、エア溜まりの原因になりますので、バルブは設けしないでください。                      また、吸上げの高さは、4.5メートル以内です。</p>
		<p>(鳥居配管)                      左図配管が、鳥居配管と言われていますが、点線の部分の空気が抜けなく、エアの噛み込みの原因になりますので絶対に行わないでください。</p>
		<p>(横引き配置)                      吸上げの高さが、4.5メートル以内でも横引きの長さが長いとエアの噛み込みの原因になります。                      吸込配管は、出来る限り短くしてください。                      (吸込全揚程は、6メートル以内です。)</p>
		<p>(逆勾配)                      ポンプの配管は、上流に向かって上り勾配にしてください。                      特に、吸込配管は、エアの噛み込みの原因になりますので必ず、ポンプに向かって上り勾配にしてください。</p>
		<p>(バルブ)                      ポンプの維持管理に必要ですので、必ず吐出し配管にバルブを設けてください。</p>
		<p>(ドレン配管)                      圧力タンクのメンテナンス時に便利です。ドレン配管を設けてください。                      ドレン配管には、ドレン弁を設置してください。(前頁図3参照)</p>

### 3. 電気配線

 <b>警告</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>配線工事は、電気設備技術基準、内線規程に従って専門技術者により正しく行ってください。配線の端子のゆるみがないことをご確認ください。無資格者による誤った配線工事は法律違反だけでなく、感電や火災を起こす恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>接地工事は、必ず行ってください。故障や漏電の時に感電する恐れがあります。緑色の線は接地線です。絶対電源につながないでください。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>本製品専用に漏電遮断器を設置してください。漏電警報出力付配線用遮断機を取付ける事を推奨致します。感電や火災を起こす恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>電動機の結線部と制御盤の一次側及び二次側や、制御盤内の動力部機器の接続部・結線部に、ゆるみのないことを確認し、ほこりを除去してください。配線接続部のゆるみによる接続不良、端子部へのほこりの付着などを放置すると、発熱して、火災事故の危険があります。</li> </ul>	
 <b>注意</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>制御盤内に物を入れないでください。火災が発生する恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>導電部の接続ネジの締め付けは、確実に行ってください。発熱や故障及び焼損の恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>電動機の端子の接続が、緩んだり外れたりしていないかを確認してください。一箇所でも緩んだり外れたりしていると、欠相運転(三相電動機の場合)になり、電動機が焼損します。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>配線接続作業などで取り外した端子カバーは、必ず元通りに取付けてください。感電やけがの恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>電気配線を傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、振ったり、束ねたり、また、重い物を載せたり、挟み込んだりしないでください。火災・漏電の原因となります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>水位信号線と動力線を、同一電線管に収納しないでください。ノイズにより誤動作する恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>電極棒や圧力センサ・圧力スイッチなどには、絶縁抵抗測定を行わないでください。電子機器を搭載または電子機器に接続されており、故障の原因となります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>制御盤には電子機器を搭載しておりますので、耐電圧・絶縁抵抗試験を行わないでください。制御盤の故障の原因となります。</li> <li>電動機の絶縁抵抗試験を行うときは、配線を制御盤から外し、電源電圧に合った絶縁抵抗計を用いて絶縁抵抗を測定し、電動機リード線とアース間が5MΩ以上あることを確認してから、配線を行ってください。電動機が焼損したり、感電や火災を起こす恐れがあります。</li> </ul>	

- (1) この給水装置は、主要部品（電動機、フロースイッチ、圧力センサまたは圧力スイッチ）の電気配線は行ってありますが、一次電源は配線してありませんので、本項内の図、または制御盤内の結線図に従って行ってください。
- (2) 一次電源の配線の際は、一次電源のアース線を一次電源用アース端子に接続してください。単相機種及び三相 0.4~1.1kW 機種については、サーミアブソーバ専用アース線を、専用のアース端子に接続してください(次頁図 4※1)。電源端子台付近に結束バンド固定具が取り付けられている場合は、結束バンドを用いて、配線を強固に固定してください。
- (3) この給水装置は、一次電源側に開閉器(配線用遮断器又は漏電遮断器)が入っておりませんので、必ず取付けてください。
- (4) 開閉器を入れる前に次の点を調べてください。
  - ①遮断器（ヒューズ）は適切なものが入っているか。
  - ②配線は、間違いはないか。
  - ③接地（アース）は、確実に施工してあるか。
  - ④電動機端子が、1本でもゆるんだり、はずれたりしていないか。ゆるんだり、はずれた状態で運転されると欠相運転となり、電動機は焼損しますのでご注意ください。
- (5) 単独交互運転、並列交互運転の場合、及び単独運転の満減水警報付（特殊仕様）の場合、ポンプ空転防止のため、制御盤内に液面キットを内蔵してありますので、受水槽の電極との接続が可能です。配線は次頁図5のように行ってください。また、単独交互運転、並列交互運転の場合、電極を5極にすることにより、流入電磁弁の開閉を行うことができます。流入電磁弁用端子を使用

- する時は、通電で「開」の電磁弁をご使用ください。ただし、流入電磁弁用端子は無電圧となっていますので電源をご用意ください。流入電磁弁を使用しない場合は、E2電極は不要です。
- (6) 現地で制御盤に進相コンデンサ(SC)を付けることはできません。別途、特殊仕様盤にて対応しております。
- (7) 当社の銘板がついている電動機は、電圧は定格電圧の±5%以内、電源周波数変動は±2%、電圧と周波数の両方の変化の絶対値の和が5%以内まで差し支えないようになっていますが、その範囲を超えてのご使用は故障の原因となりますのでご使用しないでください。

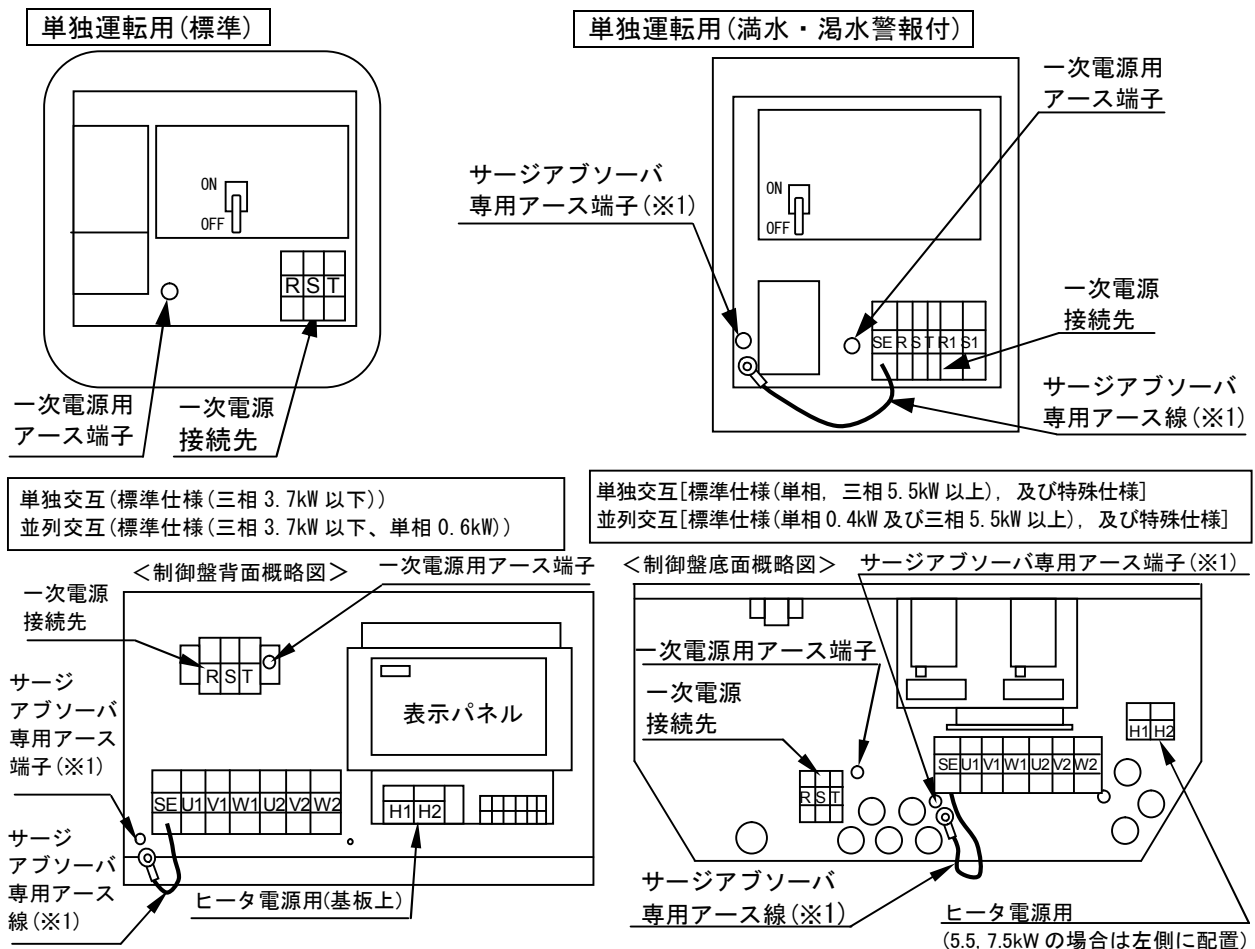


図 4

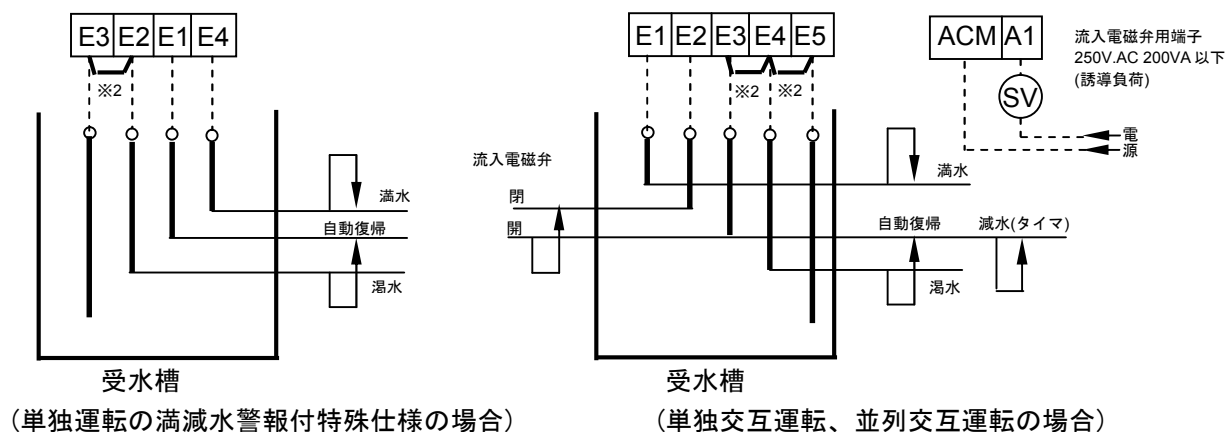


図 5

[備考] ヒータ用電源(400VA 以下)は、電源端子台より直接配線していますので、取扱いの際は、必ず主電源を切ってから行ってください。(電源スイッチの ON-OFF とは無関係です)但し、400V 級の制御盤の場合、ヒータ用電源はありません。

## 6 運 転

配管系に含まれる切削油・ゴムの離型剤・異物などが取扱い液に混入する恐れがありますので、十分フラッシングを行い、異物がないことを確認後、ご使用ください。

⚠ 警 告	・ 吊上げ状態での使用及び作業は、危険ですので絶対に行わないでください。落下及びけがの危険があります。	⊘
	・ 電動機・制御盤には、水をかけないでください。感電・漏電・火災や故障の原因になります。	⊘
	・ 試験運転時は、必ず水栓を開き、ポンプの口径分の水量（例 口径50:50L/min）以上で運転してください。ポンプがエアロックを起こしたり、ポンプ内圧や温度が上昇し、ポンプが損傷する恐れがあります。	⚠
	・ 吐出し弁を閉じたまま、ポンプを1分以上運転しないでください。ポンプ内圧上昇や温度上昇により、ケーシングやプラグなどの破損、電動機焼損の恐れがあります。	⊘
	・ ポンプの運転中に、主軸などの回転部分には、触れないでください。また、ポンプが停止中であっても、電源スイッチが入っているときは、自動運転により、急にポンプが運転をする場合がありますので、主軸などの回転部分には触れないでください。高速回転をしていますので、けがをする恐れがあります。	⊘
	・ ポンプ・電動機・制御盤などの付近には、危険物や燃え易いものを、置かないでください。発火したり延焼し、火災の恐れがあります。	⊘
	・ 通電状態にて、充電部には触らないでください。感電の恐れがあります。	⊘
⚠ 注 意	・ 故障と思われる場合は、すぐ電源スイッチを切り、ご注文先、もしくは当社に必ず点検・修理をご依頼ください。誤った操作や作業により、事故が発生する恐れがあります。	⚠
	・ 据付や点検などの作業を行う前に、給水装置周辺を整理してください。滑ったり、つまずいたりして、けがをする恐れがあります。	⚠
	・ 制御盤内に、物を入れないでください。火災が発生する恐れがあります。	⊘
	・ 電動機・制御盤（操作部を除く）や凍結防止ヒータには、触れないでください。高温になっていますので、やけどの原因になります。	⊘
	・ 電動機・制御盤に、毛布や布などをかぶせないでください。過熱して発火することがあります。	⊘
	・ ポンプ内は、必ず空気を排出し、取扱い液で満たしてください。空気が混入したまま運転すると、ドライ運転になり、ポンプが破損します。	⚠
	・ 空運転または、取扱い液中に、空気を混入させないでください。ケーシング・軸受・軸封などが破損したり、揚水不能になる恐れがあります。また、ポンプが過熱し、やけどの原因になります。	⊘
	・ ポンプ吸込配管の吸込口に近づかないでください。ポンプが運転すると、手足などが吸込まれて、けがをする恐れがあります。	⊘
	・ ポンプが高温になっている場合は、呼水栓を開けないでください。熱湯が噴出し、やけどの原因になります。	⊘
	・ 各種切替スイッチのモードは、正しく設定してください。不動作による設備の2次被害や故障の恐れがあります。	⚠
	・ 電子サーマルの設定は、正しく設定してください。誤動作や故障の恐れがあります。	⚠
・ 配管内の水を排水後は、電源を絶対に入れないでください。ドライ運転となり、ポンプが破損したり、過熱してやけどの原因になります。	⊘	

## 1. 単独運転の場合

### (1) 電気系統の確認

電源が切れていることを確認し、配線が正しく行われているかどうか、確認してください。端子のビスのゆるみも確認してください。

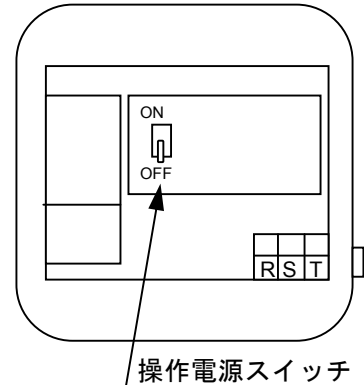
### (2) ポンプの呼び水

- (a) 受水槽の水位を確認してください。
- (b) ポンプの呼び水を行います。呼び水なしにポンプを運転することは、故障の原因になりますので、お避けください。配管系にすでに水が満たされている場合で、ポンプの吐出し口まで満水にできる場合、吸込弁と吐出し弁を開いて、呼び水してください。また、ポンプの空気抜きプラグをゆるめ、手回しをして、羽根車内の空気を出してください。
- (c) ポンプを手回しして、軽く回転するかどうかご確認ください。ライナリングは合成樹脂を使用していますので、多少音がすることがありますが、呼び水後の手回しで、動きが固かったり、ムラがなければ問題ありません。手回しは、電動機のエンドキャップをはずすと、電動機側の軸端にマイナス溝が切つてありますので、ドライバーで回してください。

### (3) ポンプの回転方向の確認

<b>注 記</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポンプの回転方向を、確認してください。三相電源で逆回転の場合には、結線替えを行って、正回転としてください。</li> <li>・ 逆回転のまま運転しないでください。振動などにより、羽根車ナットやボルトがゆるみ、事故につながる恐れがあります</li> </ul>
------------	---

- (a) 電源を入れます。
- (b) 制御盤内の操作電源スイッチを、1, 2度入れたり切ったりして、運転に異常のないことを確認してください。また、この時、回転方向（電動機側からみて右回転）を確認してください。



### (4) 自動運転の確認

- (a) 電源を入れてポンプを運転させ、給水側の給水栓を開き、圧力タンク内及び配管内を水で満たしてください。
- (b) 給水栓を閉じ、圧力が上がり、ポンプが停止することを確認してください。
- (c) 再び給水栓を開き、圧力が下がり、ポンプが始動し、給水栓から水が出ることを確認してください。

<b>注 記</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 給水栓（弁）を開いていない場合でも、ユニットが始動・停止を繰り返す場合は、配管などの設備からの漏れが考えられますので、設備の点検をしてください。ポンプが発熱したり、エアロック・断水・機器の損傷などの恐れがあります。</li> <li>・ キャビテーションが発生している状態での運転は、避けてください。過大水量で運転すると、ポンプがキャビテーションを起こすことがあります。振動・音が発生したり、規定流量（圧力）が出ないときは、キャビテーションが考えられますので、吐出し側仕切弁を絞り、流量を少なくして運転してください。</li> <li>・ 揚水中に空気が混入し排出されないと、軸受、軸封などが破損したり、揚水不能になる恐れがありますので、運転を避けてください。</li> <li>・ 始動圧力及び減圧弁の設定圧力を変更する場合は、減圧弁設定圧力調整範囲内で変更願います。</li> </ul>
------------	---



## 2. 単独交互運転及び並列交互運転の場合【標準 3.7kW 以下】

### (1) 電気系統の確認

電源が切れていることを確認し、配線が正しく行われているかどうか、確認してください。端子のビスのゆるみがないことも、確認してください。

### (2) ポンプの呼び水

(a) 受水槽の水位を確認してください。

(b) ポンプの呼び水を行います。呼び水なしにポンプを運転することは、故障の原因になりますので、お避けください。配管系にすでに水が満たされている場合で、ポンプの吐出し口まで満水にできる場合、吸込弁と吐出し弁を開いて呼び水してください。また、ポンプの空気抜きプラグをゆるめ、手回しをして羽根車内の空気を出してください。

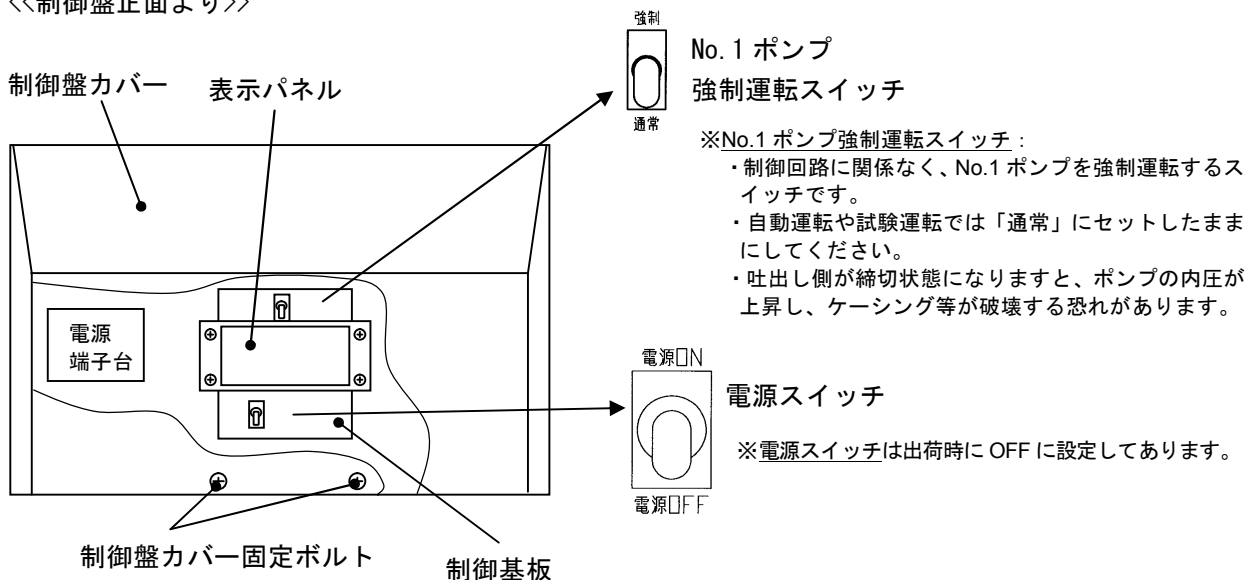
(c) ポンプを手回しして、軽く回転するかどうかご確認ください。ライナリングは合成樹脂を使用していますので、多少音がすることがありますが、呼び水後の手回しで、動きが固かったりムラがなければ問題ありません。手回しは電動機のエンドキャップをはずすと、電動機側の軸端にマイナス溝が切ってありますので、ドライバーで回してください。

### (3) ポンプの回転方向の確認

<b>注 記</b>	・ ポンプの回転方向を、確認してください。三相電源で逆回転の場合には、結線替えを行って、正回転としてください。
	・ 逆回転のまま運転しないでください。振動などにより、羽根車ナットやボルトがゆるみ、事故につながる恐れがあります。

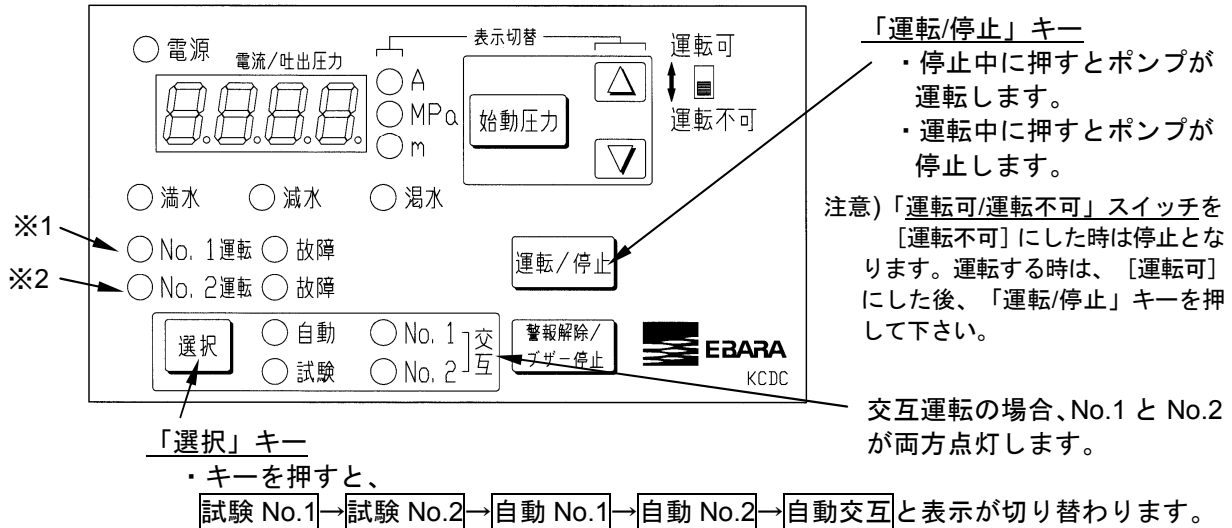
※制御盤カバー固定ボルト2本をゆるめて、制御盤カバーを取ると、表示パネルと、その裏に制御基板があります。下記2種類のスイッチは、制御基板上にあります。

<<制御盤正面より>>



- (a) 制御盤面上の「運転可／運転不可」スイッチを、【運転不可】にして制御盤に電源投入してください。運転可にすると、運転状態記憶保持により電源投入と同時にポンプが始動することがあります。
- (b) 制御盤内の制御基板上にある「電源スイッチ」を、電源ONにしてください。制御盤面上の電源ランプが点灯します。

以降はすべて制御盤面上の表示パネルでの操作となります。



※1 : No.1 ポンプ運転中に LED が点灯します。

※2 : No.2 ポンプ運転中に LED が点灯します。

- (c) 「運転可／運転不可」スイッチを 【運転可】 にしてください。
- (d) 「選択」キーを押すと試験 No. 1 → 試験 No. 2 → 自動 No. 1 → 自動 No. 2 → 自動交互 (No. 1 と No. 2 両方点灯) と表示が切り替わります。【試験 No. 1】 に設定してください。
- (e) 「運転／停止」キーを押して、NO. 1 ポンプの運転に異常のないことをご確認ください。回転方向 (電動機側からみて右回転) もご確認ください。(操作時、短いブザー音が鳴ります)
- (f) 「運転／停止」キーを押して NO. 1 ポンプを停止させ、「選択」キーで、【試験 No. 2】 に設定してください。
- (g) NO. 1 ポンプと同様に NO. 2 ポンプの確認を行ってください。
- (h) 確認後、「運転可／運転不可」スイッチを 【運転不可】 にしてください。

(4) 自動運転の確認

- (a) 制御盤に電源投入した状態で制御盤面上の「運転可／運転不可」スイッチを「運転可」にしてください。
- (b) 「選択」キーを自動－交互と設定し、「運転／停止」キーを押してください。
- (c) 給水側の給水栓を開けてください。圧力が下がり、ポンプが始動し、給水栓から水が出ることを確認してください。
- (d) 給水栓を閉じて、圧力が上がり、ポンプが停止することを確認してください。
- (e) 給水栓を開閉し、ポンプが交互に始動と停止することを確認してください。また、No. 1, No. 2の各ポンプについて、運転中は、表示部の[No. 1 運転]と[No. 2 運転]が表示されることを確認してください。
- (f) 並列交互運転の場合は、給水栓を開き、圧力が下がり、ポンプが始動した後、さらに給水栓を多数開くと、ポンプが並列運転（2台運転）することを確認してください。次に、給水栓を閉じて、圧力が上がり、ポンプが、逐次停止することを確認してください。
- (g) 以上で試運転は終了です。通常は「選択」を「自動－交互」に設定してご使用ください。
- (h) 運転中に圧力，電流，振動，騒音等の異常がないかご確認ください。
- (i) 2回目以降の運転は、「保守」の項を参照し、異常がなければただちに運転できます。

<b>注 記</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 給水栓（弁）を開いていない場合でも、ユニットが始動停止を繰り返す場合は、配管などの設備からの漏れが考えられますので、設備の点検をしてください。ポンプが発熱したり、エアロック・断水・機器の損傷などの恐れがあります。</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>・ キャビテーションが発生している状態での運転は、避けてください。過大水量で運転すると、ポンプがキャビテーションを起こすことがあります。振動・音が発生したり、規定流量（圧力）が出ないときは、キャビテーションが考えられますので、吐出し側仕切弁を絞り、流量を少なくして運転してください。</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 揚水中に空気が混入し排出されないと、軸受、軸封などが破損したり、揚水不能になる恐れがありますので、運転を避けてください。</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 始動圧力及び減圧弁の設定圧力を変更する場合は、減圧弁設定圧力調整範囲内で変更願います。</li></ul>

### 3. 単独交互運転及び並列交互運転の場合【標準 5.5kW 以上、特殊仕様】

#### (1) 電気系統の確認

電源が切れていることを確認し、配線が正しく行われているかどうか確認してください。端子のビスのゆるみがないことも確認してください。

#### (2) ポンプの呼び水

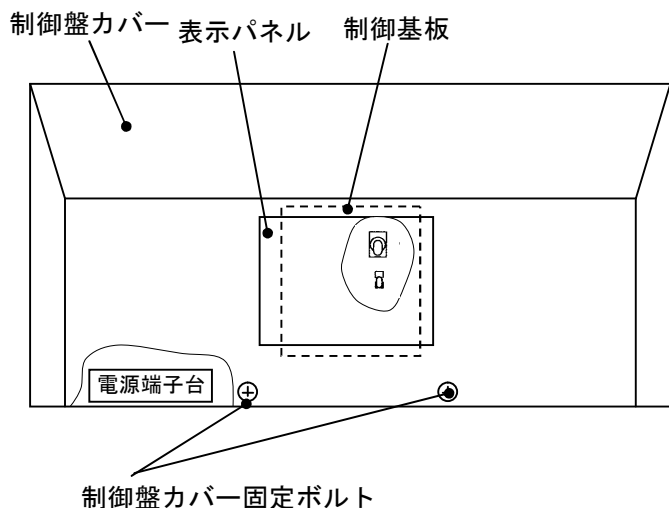
- (a) 受水槽の水位を確認してください。
- (b) ポンプの呼び水を行います。呼び水なしにポンプを運転することは、故障の原因になりますので、お避けください。配管系にすでに水が満たされている場合で、ポンプの吐出し口まで満水にできる場合、吸込弁と吐出し弁を開いて呼び水してください。また、ポンプの空気抜きプラグをゆるめ、手回しをして羽根車内の空気を完全に出してください。
- (c) ポンプを手回しして、軽く回転するかどうかご確認ください。ライナリングは合成樹脂を使用していますので、多少音がすることがありますが、呼び水後の手回しで、動きが固かったりムラがなければ問題ありません。手回しは電動機のエンドキャップをはずすと、電動機側の軸端にマイナス溝が切つてありますので、ドライバーで回してください。

#### (3) ポンプの回転方向の確認

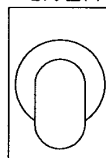
<b>注 記</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポンプの回転方向を確認してください。三相電源で逆回転の場合には、結線替えを行って、正回転としてください。</li> <li>・ 逆回転のまま運転しないでください。振動などにより、羽根車ナットやボルトがゆるみ、事故につながる恐れがあります。</li> </ul>
------------	---

※制御盤カバー固定ボルト2本をゆるめて、制御盤カバー（表示パネルはカバーと一体で、外れます。）を取ると、制御基板があります。下記2種類のスイッチは、その基板上にあります。

<<制御盤正面より>>



電源ON



電源スイッチ

出荷時は OFF に設定してあります。

電源OFF

強制



通常

**No.1 ポンプ強制運転  
スイッチ**

- ・ 制御回路に関係なく、No.1 ポンプのみを強制運転させるためのスイッチです。
- ・ 自動運転や試験運転では「通常」にセットしたままにしてください。
- ・ 吐出し側が締切状態になりますと、ポンプ内圧が上昇し、ケーシング等が破壊する恐れがあります。

- (a) 制御盤面上の「**運転可／運転不可**」スイッチを、**[運転不可]**にして制御盤に電源投入してください。[運転可]にすると、運転状態記憶保持により、電源投入と同時にポンプが始動することがあります。
- (b) 制御盤内の制御基板上にある「**電源スイッチ**」を、**[電源ON]**にしてください。制御盤面上の電源ランプが点灯します。制御盤面上の液晶パネルに[逆相]が表示された場合は、1次側の電源が逆相となっていますので、3相のうち2相を入れ替えてください。  
(再結線時は、必ず1次側の電源を切ってください。)

以降はすべて制御盤面上の液晶パネルでの操作となります。

(下図は、最初に電源を入れたときの標準状態を示しています。)

ポンプ選択キーを押すと、

<単独交互運転の場合> <並列交互運転の場合>

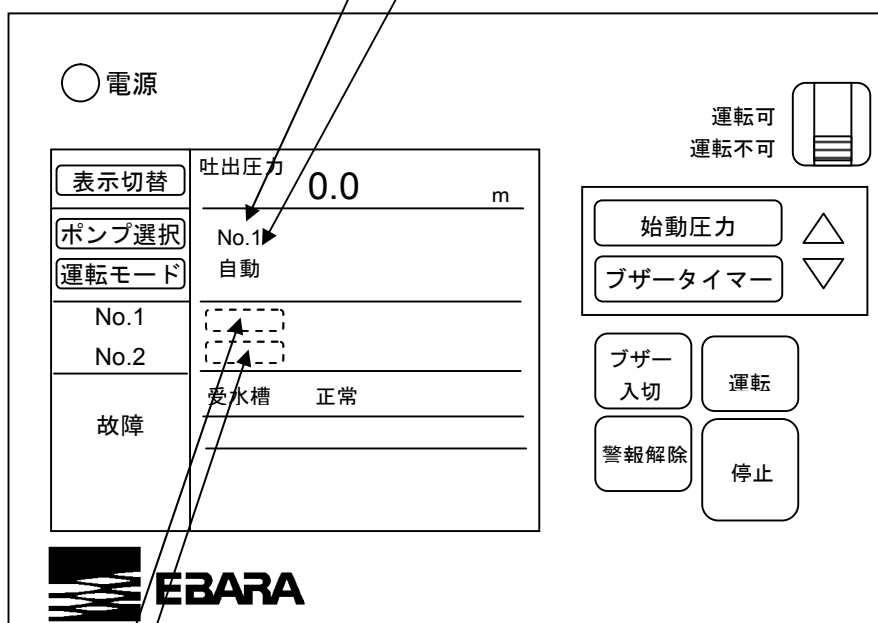
No.1→No.2→交互 No.1→No.2→並列交互

と表示が切り替わります。

運転モードキーを押すと、

自動⇄試験と表示が切り替わります。

※交互又は並列交互のポンプ選択に対し、試験運転モードの組合せはありません。



No.1 ポンプ運転時に「運転」が表示されます。

No.2 ポンプ運転時に「運転」が表示されます。

※自動運転の自動停止中は、次に運転する側に「運転」が点滅表示されます。

- (c) 「**運転可／運転不可**」スイッチを**[運転可]**にしてください。
- (d) 「**ポンプ選択**」キーを押すと、単独交互運転型の場合は、No.1/No.2/交互に、並列交互運転型の場合は、No.1/No.2/並列交互にポンプの選択が可能となります（操作時、短いブザー音が鳴ります）。**ポンプ選択**を**[No.1]**に設定してください。
- (e) 「**運転モード**」キーを押すと、試験/自動の選択が、可能となります（操作時、短いブザー音が鳴ります）。「**運転モード**」を**[試験]**に設定してください。
- (f) 「**運転**」キーと「**停止**」キーを、交互に1, 2度押して、No.1 ポンプの運転に異常のないことを、ご確認ください。回転方向（電動機側からみて右回転）もご確認ください（操作時、短いブザー音が鳴ります）。
- (g) 「**停止**」キーを押して、No.1 ポンプを停止させ、「**ポンプ選択**」を**[No.2]**に設定してください。
- (h) No.1 ポンプと同様に、No.2 ポンプの確認を行ってください。
- (i) 確認後、「**運転可／運転不可**」スイッチを**[運転不可]**にしてください。

(4) 自動運転の確認

- (a) 制御盤に電源投入した状態で、制御盤面上の「運転可／運転不可」スイッチを[運転可]にしてください。
- (b) 「ポンプ選択」を、[交互]（単独交互運転型の場合）または[並列交互]（並列交互運転型の場合）と設定し、「運転モード」を[自動]に設定し、「運転」キーを押してください。  
 「ポンプ選択」キー、「運転モード」キーの操作にあたっては、以下の点にご注意願います。  
 ・ポンプ選択が[No.1]または[No.2]の時、「運転モード」キーで、[試験]／[自動]の選択が可能です。ポンプ選択が[交互]または[並列交互]の時、「運転モード」キーは、キー操作無効（短いブザー音が4回鳴り、[自動]のまま変化せず）となります。  
 ・「運転モード」が[自動]の時、「ポンプ選択」キーで[No.1]／[No.2]／[交互]または[並列交互]の選択が可能です。また、「運転モード」が[試験]の時は、「ポンプ選択」キーで、[No.1]／[No.2]の選択のみ可能となります。  
 ・「運転」キー操作後、「ポンプ選択」キー、「運転モード」キーは、キー操作無効（短いブザー音が4回鳴り、表示が変化せず）となります。
- (c) 給水側の給水栓を開けてください。圧力が下がり、ポンプが始動し、給水栓から水が出ることを確認してください。
- (d) 給水栓を閉じて、圧力が上がり、ポンプが停止することを確認してください。
- (e) 給水栓を開閉し、ポンプが交互に始動・停止することを確認してください。また、No.1, No.2の各ポンプについて、運転中は[No.1], [No.2]表示部の右側に[運転]が表示され、自動運転の自動停止中は、次に運転するポンプ[No.1]または[No.2]表示部の右側に、[運転]が点滅表示されることを確認してください。
- (f) 並列交互運転の場合は、給水栓を開き、圧力が下がり、ポンプが始動した後、さらに給水栓を多数開くと、ポンプが並列運転（2台運転）することを確認してください。次に、給水栓を閉じて圧力が上がり、ポンプが逐次停止することを確認してください。
- (g) 以上で試運転は終了です。通常は「ポンプ選択」を[交互]（単独交互運転型の場合）または[並列交互]（並列交互運転型の場合）と設定し、「運転モード」を[自動]に設定してご使用ください。
- (h) 運転中に圧力、電流、振動、騒音等の異常がないかを、ご確認ください。
- (i) 2回目以降の運転は、「保守」の項を参照し、異常がなければ、直ちに運転できます。

注 記	・ 給水栓（弁）を開いていない場合でも、ユニットが始動停止を繰り返す場合は、配管などの設備からの漏れが考えられますので、設備の点検をしてください。ポンプが発熱したり、エアロック・断水・機器の損傷などの恐れがあります。
	・ キャビテーションが発生している状態での運転は、避けてください。過大水量で運転すると、ポンプがキャビテーションを起こすことがあります。振動・音が発生したり、規定流量（圧力）が出ないときは、キャビテーションが考えられますので、吐出し側仕切弁を絞りと、流量を少なくして運転してください。
	・ 揚水中に空気が混入し排出されないと、軸受、軸封などが破損したり、揚水不能になる恐れがありますので、運転を避けてください。
	・ 始動圧力及び減圧弁の設定圧力を変更する場合は、減圧弁設定圧力調整範囲内で変更願います。

#### 4. 単独交互／並列交互運転形の制御盤表示及び設定に関する操作【標準 3.7kW 以下】

##### (1) モニター表示

	操作方法	使用 キー	表示内容 (数値は一例です)
1	電源を入れると吐出圧力[m]を表示します。	—	吐出圧力
2	キーを押すと、吐出圧力[MPa]を表示します。		吐出圧力
3※1	試験運転または自動運転の時、 キーを押すと No.1 ポンプの電流値を表示します。No.1 ポンプ選択が点滅します。		
4※1	試験運転または自動運転の時、 キーを押すと No.2 ポンプの電流値を表示します。No.2 ポンプ選択が点滅します。		
5	キーを押すと、逆に選択できます。		吐出圧力

※1 停止キー操作後は、3、4 の表示を行わず、1⇒2⇒5 の順に表示が切り替わります。また、ポンプ選択が No.1 の時は、1⇒2⇒3⇒5、ポンプ選択が No.2 の時は、1⇒2⇒4⇒5 の順に表示が切り替わります。

##### (2) ポンプ選択操作及び表示

##### (3) 運転モード操作及び表示

##### (4) 運転／停止キー操作及び運転表示。

】 P.17 をご参照ください。

##### (5) 始動圧力設定操作

	操作方法	使用 キー	表示内容   は点滅表示 数値は一例です。
1※2	「始動圧力」キーを押すと、吐出し圧力などの表示モードが始動圧力設定モードとなり、現在の始動圧力[m]が点滅表示されます。		
2※3	アップダウンキーを押すと、点滅表示値が変動します。		
3※4	「始動圧力」キーを 5 秒間押すと、点滅表示値が連続点灯に変わり、始動圧力が設定されます。そして、3 秒後に通常の吐出圧力等の表示モードに戻ります。		

※2 操作時、長いブザー音が鳴ります。運転操作中、「始動圧力」キーは無効（短いブザー音が 4 回鳴り、表示モードが変化せず）となります。

※3 値の変化に合わせて短いブザー音が鳴ります。（押し続けると、値が連続的に変化し、短いブザー音が連続的に鳴ります）アップダウンキーでの始動圧力変動範囲は、下限値が 0.0m、上限値が締切り圧力 - 9.0m となっています。

※4 5 秒間のキー操作時、断続的にブザー音が鳴り続け、設定時、長いブザー音が鳴ります。始動圧力設定モードで 2 分間キー操作がない場合も、通常の吐出し圧力等の表示モードに戻ります。

\* 始動圧力を変動させると、停止圧力も同じ変動分だけ自動的に変動し、始動と停止の圧力差を一定 (0.059MPa{0.6kgf/cm<sup>2</sup>}) に保ちます。

(6) 警報及び警報発生時の処理

警報発生時、警報ブザーが鳴り、表示パネル上に LED 表示が出ます。また、異常内容により異常時のポンプ停止・切替動作、警報出力等を行います。**警報解除/ブザー停止**キーを押すと、警報ブザーが停止します。

(a) 水位警報

・表示

受水槽		
満水	減水	濁水

・ポンプ動作

受水槽 濁水時のみ運転中のポンプをすべて停止します。

・外部端子出力

満水, 減水, 濁水の各出力を行います。

・警報解除

水位が正常に復帰すると、自動的に解除されます。

(b) 故障警報

・表示

異常項目	リライ	警報表示	該当ポンプ	外部出力	異常時ポンプ停止・切替動作
過負荷	あり	F01/F02	No.1/No.2ポンプ	あり	該当ポンプ停止・切替
過熱	なし	F23/F24	No.1/No.2ポンプ	あり	該当ポンプ停止・切替
始動頻度過多	なし	F16		なし	なし
圧力センサ異常	なし	F17		あり	ポンプ 2 台ともに停止
温度センサ異常	なし	F18/F19	No.1/No.2ポンプ	あり	該当ポンプ停止・切替

2つ以上の故障が発生した場合は、各システムの故障表示を順に繰り返し点滅表示します。

・ポンプ動作

システム異常 F16（始動頻度過多）の場合は、ポンプ停止動作を行いません。

システム異常 F17（圧力センサ異常）の場合は、運転中のポンプをすべて停止します。

その他の場合は異常検出した該当ポンプに対し、ポンプを停止させ、自動的に他のポンプへの切替動作を行います。

・外部端子出力

システム異常 F16（始動頻度過多）の場合は、故障出力を行いません。

システム異常 F17（圧力センサ異常）の場合は、No.1 故障, No.2 故障の両方の出力を行います。

その他の場合は故障発生時に、No.1 故障, No.2 故障の該当するポンプの故障出力を行います。

・警報解除

「警報解除／ブザー停止」キーはブザーが鳴っている場合はブザー停止、そうでない場合に警報解除します。

警報発生から解除までの流れは、警報発生時に、ブザーが鳴ります。「警報解除／ブザー停止」キーを押すと、ブザーが停止します。その後、警報内容に従い、原因を除去した上で、「警報解除／ブザー停止」キーを押すと、警報が解除されます。

----警報発生時の表示例を次項に示します。----

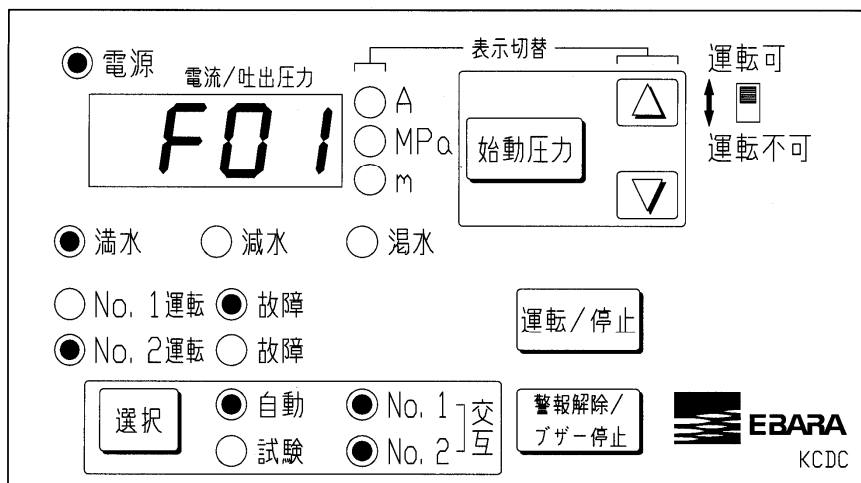


(7) その他の異常及び異常発生時の処理

CPU Er6 または CPU Er7 が表示された時は、表示パネルの接続ケーブルの差込み不良がないかご確認ください。（警報ブザーは鳴りません）

<警報発生時の表示例>

並列交互・自動運転中、受水槽 満水、No.1 ポンプ過負荷となり No.2 ポンプが運転している状態



5. 単独交互／並列交互運転形の制御盤表示及び設定に関する操作  
【標準 5.5kW 以上、特殊仕様】

(1) モニター表示


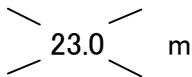

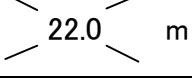
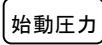
	操作方法	使用 キー	表示内容 (数値は一例です)
1	電源を入れると吐出圧力[m]を表示します。	—	吐出圧力 32.5 m
2	「表示切替」キーを押すと、吐出圧力[MPa]を表示します。	表示切替	吐出圧力 0.319 MPa
3 <sup>※1</sup>	試験運転または自動運転の時、「表示切替」キーを押すと No.1 ポンプの電流値を表示します。	表示切替	6.7 A
4 <sup>※1</sup>	試験運転または自動運転の時、「表示切替」キーを押すと No.2 ポンプの電流値を表示します。	表示切替	6.8 A
5	「表示切替」キーを押すと、再び吐出圧力[m]を表示します。	表示切替	吐出圧力 32.5 m

※1 「停止キー」操作後は、3,4 の表示を行わず、1⇒2⇒5 の順に表示が切り替わります。

また、ポンプ選択[No.1]の時は、1⇒2⇒3⇒5、ポンプ選択[No.2]の時は、1⇒2⇒4⇒5 の順に表示が切り替わります。

- (2) ポンプ選択操作及び表示  
(3) 運転モード操作及び表示  
(4) 運転/停止キー操作及び運転表示
- } (P.20) をご参照ください。

(5) 始動圧力設定操作

	操作方法	使用 キー	表示内容 > < は点滅表示 数値は一例です。
1※2	「始動圧力」キーを押すと、吐出し圧力などの表示モードが始動圧力設定モードとなり、現在の始動圧力[m]が点滅表示されます。		
2※3	アップダウンキーを押すと、点滅表示値が変動します。		
3※4	「始動圧力」キーを5秒間押すと、点滅表示値が連続点灯に変わり、始動圧力が設定されます。そして、3秒後に通常の吐出し圧力等の表示モードに戻ります。		22.0 m

※2 操作時、長いブザー音が鳴ります。運転操作中、「始動圧力」キーは無効（短いブザー音が4回鳴り、表示モードが変化せず）となります。

※3 値の変化に合わせて短いブザー音が鳴ります。（押し続けると、値が連続的に変化し、短いブザー音が連続的に鳴ります）アップダウンキーでの始動圧力変動範囲は、下限値が0.0m、上限値が締切り圧力9.0mとなっています。

※4 5秒間のキー操作時、断続的にブザー音が鳴り続け、設定時、長いブザー音が鳴ります。始動圧力設定モードで2分間キー操作がない場合も、通常の吐出し圧力等の表示モードに戻ります。

\* 始動圧力を変動させると、停止圧力も同じ変動分だけ自動的に変動し、始動と停止の圧力差を一定（0.059MPa{0.6kgf/cm<sup>2</sup>}）に保ちます。

(6) ブザータイマー設定操作

「始動圧力」キーの時と同様に、「ブザータイマー」キーにより警報ブザーのブザータイマーの設定（ブザーの鳴る時間）を、行うことができます。ブザータイマーの設定は、0.0～10.0分の範囲で0.5分ごとに行うことができ、0.0分の時は、ブザーは停止せず鳴り続けます。表示は数値表示のみで、単位表示はありません。

(7) 警報及び警報発生時の処理

警報発生時、警報ブザーが鳴り、液晶パネルに警報表示が出ます。また、異常内容により異常時のポンプ停止・切替動作、外部端子への警報出力等を行います。「ブザー入切」キーを押すと、警報ブザーが停止します。

(a) 水位警報

表示

受水槽		
満水	減水	渴水

\* 正常時は[受水槽] [正常]を表示します。

ポンプ動作 : [受水槽] [渴水]時のみ、運転中のポンプをすべて停止します。

外部端子出力 : 満水, 減水, 渴水の各出力を行います。

警報解除 : 水位が正常に復帰すると、自動的に解除されます。

(b) 故障警報

表示

No.1 ポンプまたは No.2 ポンプ							システム異常
過負荷	過熱	逆相	SSC(異常) <sup>※2</sup>	漏電 <sup>※2</sup>	吐出圧力低下 <sup>※2</sup>	欠相 <sup>※2</sup>	F16~F19

\* ※2 の付いたものは、該当する特殊仕様のある時のみ適用されます。

\* 逆相は、三相機種の場合に適用されます。

\* SSC(異常)は、SSC 制御盤の場合となります。

\* システム異常の F16~F19 の警報コードは、以下の内容となっています。

F16 : 始動頻度過多

F17 : 圧力センサ異常

F18 : No.1 温度センサ異常

F19 : No.2 温度センサ異常

\* No.1 ポンプ故障・No.2 ポンプ故障・システム異常の 3 系統の故障のうち、2 つ以上の系統の故障が発生した場合は、各系統の故障表示を、順に繰り返し点滅表示します。

ポンプ動作

逆相、システム異常 F16 (始動頻度過多) の場合は、ポンプ停止動作を行いません。システム異常 F17 (圧力センサ異常) の場合は、運転中のポンプをすべて停止します。その他の場合は、異常検出した該当ポンプに対し、異常時ポンプを停止させ、自動的に他のポンプへの切替動作を行います。

外部端子出力

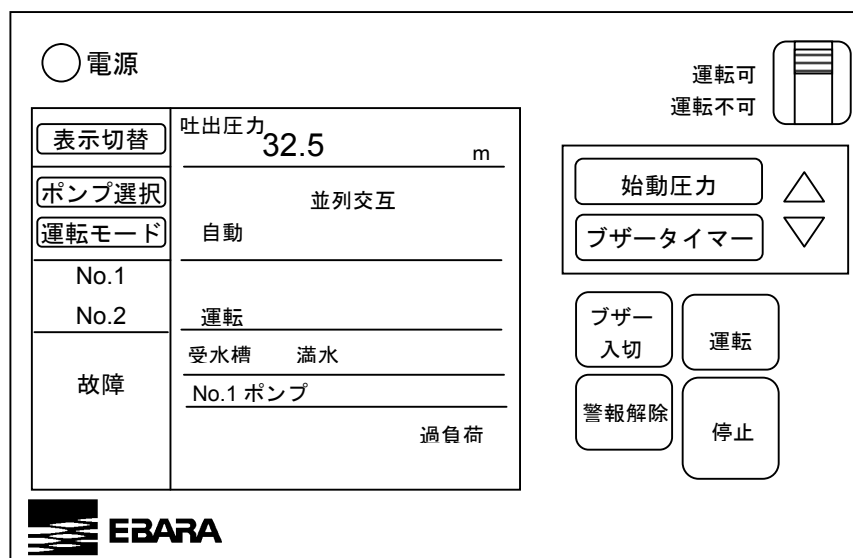
逆相、システム異常 F16 (始動頻度過多) の場合は、故障出力を行いません。システム異常 F17 (圧力センサ異常) の場合は、No. 1 故障, No. 2 故障の両方の出力を行います。漏電の場合は、漏電警報無電圧端子付の時のみ、No. 1 漏電, No. 2 漏電の該当する漏電出力を行います。その他の場合は、故障発生時に No. 1 故障, No. 2 故障の、該当する故障出力を行います。

警報解除

漏電の場合は、原因を除去した後、漏電遮断器を ON にしてください。その他の場合は原因を除去した後、「警報解除」キーを押してください。

< 警報発生時の表示例 >

並列交互・自動運転中、受水槽 満水、No.1 ポンプ過負荷となり、No.2 ポンプが運転している状態





(8) その他の異常及び異常発生時の処理

CPU Er6 または CPU Er7 が表示された時は、液晶パネルの接続ケーブルの差込み不良がないか、ご確認ください。(警報ブザーは鳴りません)

## 6. 圧力スイッチ又は圧力センサ、減圧弁の設定

この給水装置の圧力検出には、単独運転形の場合は、圧力スイッチを使用し、単独交互／並列交互運転形の場合、圧力センサを使用しています。工場出荷時、「6 7. 自動給水装置仕様一覧表」の通り、圧力設定を行っています。

給水装置を充分満足してご使用頂くためには、現場の配管条件に合わせた圧力設定が必要ですので、下記要領に従い、必ず据付後、現場にて調整をしてください。

 <b>注意</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 圧力センサの始動圧力を変更する場合は、必ず減圧弁も再設定してください。</li> <li>・ 減圧弁の設定圧力は、始動圧力より 0.029MPa (0.3kgf/cm<sup>2</sup>, 3m) 高い値にして下さい。始動圧力のみを変更したり、減圧弁の設定を誤ると、誤動作し、給水装置が故障する場合があります。</li> </ul>	
---	---	---

<b>注記</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 始動圧力及び減圧弁の設定圧力を変更する場合は、減圧弁設定圧力調整範囲内で変更願います。</li> </ul>
-----------	---

### (1) 圧力スイッチの設定（単独運転形の場合）

#### (a) 停止（OFF）圧力の設定

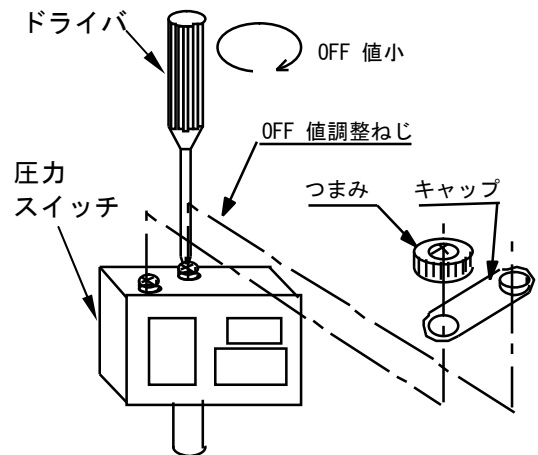
OFF 圧力を設定するには、圧力スイッチのつまみの頭にあるビスをゆるめ、つまみとキャップを取り外してください。

給水装置を運転し、近くの給水栓を 1 個全開にして、連続運転を行います。圧力が安定してから吐出し圧力を確認してください。この圧力より 0.049MPa {0.5kgf/cm<sup>2</sup>} 低い圧力を OFF 圧力としてください。圧力スイッチの OFF 値調整ねじを回して概略値を合わせます。（圧力スイッチの目盛は目安です）給水栓を閉じ、OFF 動作音がする時の圧力を確認してください。OFF 圧力が高い場合は右方向、低い場合は左方向に調整ねじを回して、OFF 圧力の設定を行ってください。

#### (b) 始動圧力の設定

最上階、または最も離れた給水器具の給水圧力が、充分あるように決定します。各給水器具の最低必要圧力は、次の表のようになります。

給水器具	必要圧力
洗浄弁	0.069MPa{0.7kgf/cm <sup>2</sup> }
一般給水栓	0.029MPa{0.3kgf/cm <sup>2</sup> }
自閉水栓	0.069MPa{0.7kgf/cm <sup>2</sup> }
シャワー	0.069MPa{0.7kgf/cm <sup>2</sup> }
瞬間湯沸し器	0.049MPa{0.5kgf/cm <sup>2</sup> }

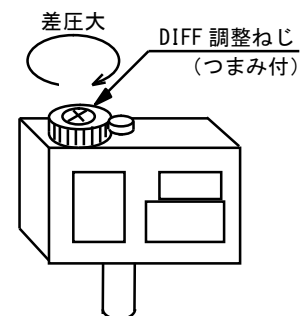


OFF 圧力を設定する時は、圧力スイッチのつまみの頭にあるビスをゆるめ、つまみとキャップを取り外してください。

始動圧力のみを単独で調整できませんので、OFF 圧力と始動圧力の差圧を、圧力スイッチの DIFF 調整ねじをまわして概略合わせます。圧力スイッチ設定後、蛇口を開けて圧力をゆっくりと下げ、ポンプが始動する圧力を確認してください。この時始動圧力が低い場合は左方向に、高い場合は右方向に調整ねじを回して、始動圧力の設定を行ってください。

\* OFF 値調整ねじと DIFF 調整ねじは、交互に最終微調整を行い、OFF 圧力と始動圧力の確認を行ってください。

\* 停止圧力と始動圧力の差は、0.059MPa {0.6kgf/cm<sup>2</sup>} 以上



としてください。

(2) 圧力センサの設定 (単独交互／並列交互運転形の場合)

(a) 始動圧力の設定

工場出荷時、機種ごとに締切圧力より 0.11MPa {1.1kgf/cm<sup>2</sup>} 低い圧力を ON 圧力とし、制御盤に設定されています。(6) 7. 自動給水装置仕様一覧表をご参照ください)

最上階または最も離れた給水器具の給水圧力が、充分あるように決定します。各給水器具の最低必要圧力は、下の表のようになります。

始動圧力の設定方法については、「3. 単独交互／並列交互運転形の制御盤表示及び設定に関する操作」を、ご参照ください。

\* 始動圧力を変更すると、停止圧力も同じ変更分だけ自動的に変動し、始動と停止の圧力差を一定 (0.059MPa{0.6kgf/cm<sup>2</sup>}) に保ちます。

給水器具	必要圧力
洗浄弁	0.069MPa{0.7kgf/cm <sup>2</sup> }
一般給水栓	0.029MPa{0.3kgf/cm <sup>2</sup> }
自閉水栓	0.069MPa{0.7kgf/cm <sup>2</sup> }
シャワー	0.069MPa{0.7kgf/cm <sup>2</sup> }
瞬間湯沸し器	0.049MPa{0.5kgf/cm <sup>2</sup> }

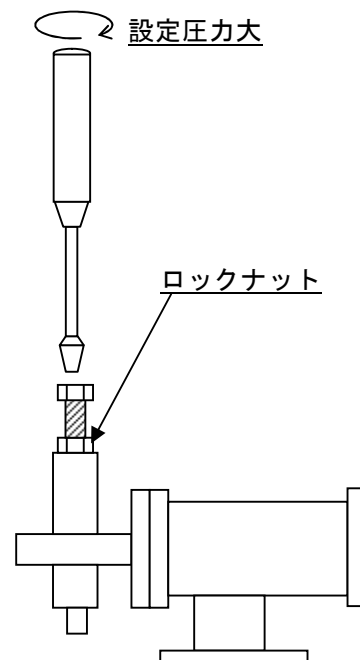
(b) 最高吐出し圧力と始動圧力変更後の停止圧力との関係確認

「ポンプ選択」を[No.1]または[No.2]、「運転モード」を[試験]にして給水装置を運転し、近くの給水栓を1個全開にし、連続運転を行います。圧力が安定したら、給水栓を閉じ、最高吐出し圧力を確認してください。この圧力が始動圧力変更後の停止圧力よりも、大きいことを確認してください。

(3) 減圧弁の設定設定

(a) 減圧弁の設定圧力は、始動圧力より 0.029MPa{0.3kgf/cm<sup>2</sup>}高い値とします。給水装置をポンプ1台で運転し、蛇口を2~3個開けて約 50L/min の水量を流し、連続運転を行います。減圧弁のロックナットを緩め、調整ねじをゆっくりとマイナスドライバーにて回し、設定圧力に合わせてください。左に回すと設定圧力が低くなり、右に回すと設定圧力が高くなります。設定後に蛇口を開閉させてご確認ください。

(b) 減圧弁設定後、調整ねじをロックナットにて固定してください。



## 圧力の設定例 1 (圧カスイッチの設定の場合)

・使用給水装置型式：32BISME5.75

### ①OFF 圧力の設定

最高吐出し圧力：運転により 0.36MPa {3.7kgf/cm<sup>2</sup>} の場合  
 OFF 圧力 = 最高吐出し圧力 - 0.049MPa = 0.31MPa  
 {3.2kgf/cm<sup>2</sup>}

〔受水槽の最低水位を考慮した上で、  
 最高吐出し圧力 ≥ OFF 圧力 + 0.029MPa {0.3kgf/cm<sup>2</sup>, 3m}  
 を目安としてください。〕

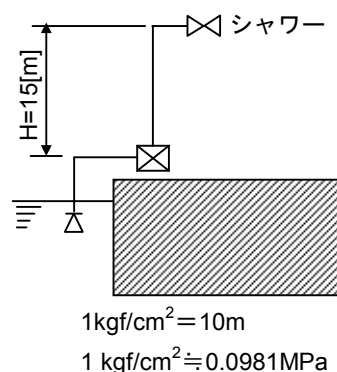
### ②始動圧力の設定

右図の場合

始動圧力 = 最上階の高さ分の圧力 + 器具の必要圧力  
 = 0.15MPa + 0.069MPa = 0.22MPa {2.2kgf/cm<sup>2</sup>}  
 差圧 = OFF 圧力 - 始動圧力  
 = 0.31MPa - 0.22MPa = 0.09MPa {1.0kgf/cm<sup>2</sup>}

### ③減圧弁の設定

減圧弁設定圧力 = 始動圧力 + 0.029MPa {0.3kgf/cm<sup>2</sup>}  
 = 0.22MPa + 0.029MPa  
 = 0.25MPa {2.5kgf/cm<sup>2</sup>}



## 圧力の設定例 2 (圧カセンサの設定の場合)

・使用給水装置型式：32BIPME5.75

### ①始動圧力の設定

右図の場合

始動圧力 = 最上階の高さ分の圧力 + 器具の必要圧力  
 = 0.15MPa + 0.069MPa = 0.22MPa {2.2m}  
 始動圧力設定値：7. 自動給水装置仕様一覧表により、  
 = 0.26MPa {2.6kgf/cm<sup>2</sup>}

### ②最高吐出し圧力と始動圧力変更後の停止圧力との関係確認

OFF 圧力：7. 自動給水装置仕様一覧表により、  
 0.31MPa {3.2kgf/cm<sup>2</sup>}

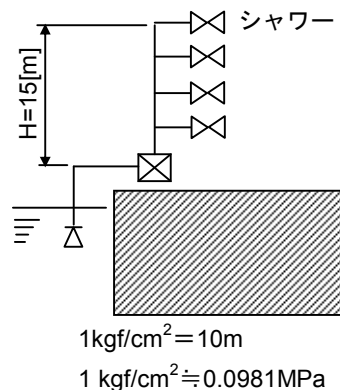
始動圧力変更後の停止圧力 = 停止圧力 - 始動圧力変更分  
 = 0.31MPa - 0.04MPa  
 = 0.27MPa {2.8m}

運転により最高吐出し圧力が 0.27MPa {2.8m} よりも大きいことを確認する。

〔受水槽の最低水位を考慮した上で、  
 最高吐出し圧力 ≥ 停止圧力 + 0.029MPa {0.3kgf/cm<sup>2</sup>, 3m}  
 を目安としてください。〕

### ③減圧弁の設定

減圧弁設定圧力 = 始動圧力 + 0.029MPa {3.0m}  
 = 0.22MPa + 0.029MPa  
 = 0.25MPa {2.5m}



※単独運転形の場合、圧カスイッチの OFF 圧力、差圧の表示単位は MPa になっています。  
 ※単独交互/並列交互運転形の場合、始動圧力の表示単位は m になっています。

## 7. 自動給水装置仕様一覧表

- この給水装置は吸上げ・流し込み兼用形です。
- 圧カスイッチまたは圧カセンサの ON 設定圧力は、始動圧力標準設定値です。
- 停止圧力は停止 (OFF) 圧力より高くなり、締切圧力まで上昇することがあります。
- 単独交互運転／並列交互運転形の場合、圧カセンサでの設定時、単位表示を MPa から m に換算して、入力する必要があります。

※MPa から m への換算

$$[m]=[MPa] \times 102$$

### 単独運転形 (50Hz)

型式	締切圧力 MPa {kgf/c m <sup>2</sup> }	減圧弁設定 圧力調整範囲 MPa {kgf/c m <sup>2</sup> }	圧カタンク 封入圧力 MPa {kgf/c m <sup>2</sup> }	圧カ スイッチ 型式	圧カスイッチ 設定圧力 MPa {kgf/c m <sup>2</sup> }		減圧弁 型式	圧カ タンク 型式		
					ON	OFF				
25BISME5.4S	0.26 [2.7]	0.11~0.21 [1.1~2.1]	0.059 [0.6]	PS-4N	0.16 [1.6]	0.22 [2.2]	BVN-40L	BT-10		
25BISME5.4	0.26 [2.7]	0.11~0.21 [1.1~2.1]	0.059 [0.6]		0.16 [1.6]	0.22 [2.2]				
32BISME5.4S	0.22 [2.2]	0.11~0.16 [1.1~1.6]	0.059 [0.6]		0.11 [1.1]	0.17 [1.7]				
32BISME5.6S	0.35 [3.6]	0.15~0.29 [1.5~3.0]	0.098 [1.0]	PS-3N	0.25 [2.5]	0.30 [3.1]				
32BISME5.4	0.22 [2.2]	0.11~0.16 [1.1~1.6]	0.057 [0.6]	PS-4N	0.11 [1.1]	0.17 [1.7]				
32BISME5.75	0.36 [3.7]	0.15~0.30 [1.5~3.1]	0.098 [1.0]	PS-3N	0.26 [2.6]	0.31 [3.2]				
32BISME51.1A	0.50 [5.1]	0.26~0.44 [2.6~4.5]	0.20 [2.0]		0.39 [4.0]	0.45 [4.6]				
32BISME51.1B	0.60 [6.1]	0.26~0.54 [2.6~5.5]	0.20 [2.0]		0.49 [5.0]	0.55 [5.6]				
40BISME5.75	0.18 [1.8]	0.088~0.12 [0.9~1.2]	0.039 [0.4]	PS-4N	0.078 [0.8]	0.14 [1.4]			BVN-40S	BT-10
40BISME51.1	0.29 [3.0]	0.12~0.24 [1.2~2.4]	0.069 [0.7]	0.19 [1.9]	0.25 [2.5]					
40BISME51.5	0.36 [3.7]	0.15~0.30 [1.5~3.1]	0.098 [1.0]	PS-3N	0.26 [2.6]	0.31 [3.2]				
40BISME52.2	0.55 [5.6]	0.26~0.49 [2.6~5.0]	0.20 [2.0]		0.44 [4.5]	0.50 [5.1]				
40BISME53.7A	0.69 [7.0]	0.30~0.63 [3.1~6.4]	0.25 [2.5]	PS-6N	0.54 [5.5]	0.64 [6.5]				
40BISME53.7B	0.77 [7.8]	0.36~0.71 [3.7~7.2]	0.29 [3.0]		0.62 [6.3]	0.72 [7.3]				
50BISME51.5	0.29 [3.0]	0.12~0.24 [1.2~2.4]	0.069 [0.7]	PS-4N	0.19 [1.9]	0.25 [2.5]				
50BISME52.2	0.39 [4.0]	0.17~0.33 [1.7~3.4]	0.12 [1.2]	PS-3N	0.28 [2.9]	0.34 [3.5]				
50BISME53.7A	0.50 [5.1]	0.26~0.44 [2.6~4.5]	0.20 [2.0]		0.39 [4.0]	0.45 [4.6]				
50BISME53.7B	0.61 [6.2]	0.30~0.55 [3.1~5.6]	0.25 [2.5]		0.50 [5.1]	0.56 [5.7]				

### 単独運転形 (60Hz)

型式	締切圧力 MPa {kgf/c m <sup>2</sup> }	減圧弁設定 圧力調整範囲 MPa {kgf/c m <sup>2</sup> }	圧カタンク 封入圧力 MPa {kgf/c m <sup>2</sup> }	圧カ スイッチ 型式	圧カスイッチ 設定圧力 MPa {kgf/c m <sup>2</sup> }		減圧弁 型式	圧カ タンク 型式
					ON	OFF		
25BISME6.4S	0.27 [2.8]	0.11~0.22 [1.1~2.2]	0.059 [0.6]	PS-4N	0.17 [1.7]	0.23 [2.3]	BVN-40L	BT-10
25BISME6.4	0.27 [2.8]	0.11~0.22 [1.1~2.2]	0.059 [0.6]		0.17 [1.7]	0.23 [2.3]		
32BISME6.4S	0.21 [2.1]	0.11~0.15 [1.1~1.5]	0.059 [0.6]		0.098 [1.0]	0.16 [1.6]		
32BISME6.6S	0.32 [3.3]	0.15~0.26 [1.5~2.7]	0.098 [1.0]		0.22 [2.2]	0.27 [2.8]		
32BISME6.4	0.21 [2.1]	0.11~0.15 [1.1~1.5]	0.059 [0.6]		0.098 [1.0]	0.16 [1.6]		
32BISME6.75	0.33 [3.4]	0.15~0.27 [1.5~2.8]	0.098 [1.0]		PS-3N	0.23 [2.3]		
32BISME61.1A	0.50 [5.1]	0.26~0.44 [2.6~4.5]	0.20 [2.0]	PS-4N	0.39 [4.0]	0.45 [4.6]	BVN-40S	BT-10
32BISME61.1B	0.63 [6.4]	0.30~0.56 [3.1~5.7]	0.25 [2.5]		0.52 [5.3]	0.58 [5.9]		
40BISME6.75	0.17 [1.7]	0.088~0.11 [0.9~1.1]	0.039 [0.4]		0.078 [0.8]	0.14 [1.4]		
40BISME61.1	0.26 [2.7]	0.11~0.21 [1.1~2.1]	0.059 [0.6]	PS-4N	0.16 [1.6]	0.22 [2.2]		
40BISME61.5	0.34 [3.5]	0.15~0.28 [1.5~2.9]	0.098 [1.0]	PS-3N	0.24 [2.4]	0.29 [3.0]		
40BISME62.2	0.53 [5.4]	0.26~0.47 [2.6~4.8]	0.20 [2.0]		0.42 [4.3]	0.48 [4.9]		
40BISME63.7A	0.64 [6.5]	0.30~0.56 [3.1~5.7]	0.25 [2.5]	PS-6N	0.53 [5.4]	0.59 [6.0]		
40BISME63.7B	0.73 [7.4]	0.36~0.67 [3.7~6.8]	0.29 [3.0]		0.58 [5.9]	0.68 [6.9]		
50BISME61.5	0.24 [2.4]	0.11~0.18 [1.1~1.8]	0.059 [0.6]	PS-4N	0.13 [1.3]	0.19 [1.9]		
50BISME62.2	0.35 [3.6]	0.15~0.29 [1.5~3.0]	0.098 [1.0]	PS-3N	0.25 [2.5]	0.30 [3.1]		
50BISME63.7A	0.46 [4.7]	0.21~0.40 [2.1~4.1]	0.15 [1.5]		0.35 [3.6]	0.41 [4.2]		
50BISME63.7B	0.57 [5.8]	0.26~0.51 [2.6~5.2]	0.20 [2.0]		0.46 [4.7]	0.52 [5.3]		

単独交互運転形 (50Hz)

型式	締切圧力 MPa {kgf/c m <sup>2</sup> }	減圧弁設定 圧力調整範囲 MPa {kgf/c m <sup>2</sup> }	圧力タンク 封入圧力 MPa {kgf/c m <sup>2</sup> }	圧力 センサ 型式	圧力センサ 設定圧力 MPa {kgf/c m <sup>2</sup> }		減圧弁 型式	圧力 タンク 型式
					ON	OFF		
25BIRME5.4S	0.26 {2.7}	0.11~0.21 {1.1~2.1}	0.059 {0.6}	PSS-1	0.16 {1.6}	0.22 {2.2}	BWN-40L	BT-10
25BIRME5.4	0.26 {2.7}	0.11~0.21 {1.1~2.1}	0.059 {0.6}		0.16 {1.6}	0.22 {2.2}		
32BIRME5.4S	0.22 {2.2}	0.11~0.16 {1.1~1.6}	0.059 {0.6}		0.11 {1.1}	0.17 {1.7}		
32BIRME5.6S	0.35 {3.6}	0.15~0.29 {1.5~3.0}	0.098 {1.0}		0.25 {2.5}	0.30 {3.1}		
32BIRME5.4	0.22 {2.2}	0.11~0.16 {1.1~1.6}	0.059 {0.6}		0.11 {1.1}	0.17 {1.7}		
32BIRME5.75	0.36 {3.7}	0.15~0.30 {1.5~3.1}	0.098 {1.0}		0.26 {2.6}	0.31 {3.2}		
32BIRME51.1A	0.50 {5.1}	0.26~0.44 {2.6~4.5}	0.20 {2.0}		0.39 {4.0}	0.45 {4.6}		
32BIRME51.1B	0.60 {6.1}	0.26~0.54 {2.6~5.5}	0.20 {2.0}		0.49 {5.0}	0.55 {5.6}		
40BIRME5.75	0.18 {1.8}	0.088~0.12 {0.9~1.2}	0.039 {0.4}		0.078 {0.8}	0.14 {1.4}		
40BIRME51.1	0.29 {3.0}	0.12~0.24 {1.2~2.4}	0.069 {0.7}		0.19 {1.9}	0.25 {2.5}		
40BIRME51.5	0.36 {3.7}	0.15~0.30 {1.5~3.1}	0.098 {1.0}		0.26 {2.6}	0.31 {3.2}		
40BIRME52.2	0.55 {5.6}	0.26~0.49 {2.6~5.0}	0.20 {2.0}		0.44 {4.5}	0.50 {5.1}		
40BIRME53.7A	0.69 {7.0}	0.30~0.63 {3.1~6.4}	0.25 {2.5}		0.58 {5.9}	0.64 {6.5}		
40BIRME53.7B	0.77 {7.8}	0.36~0.71 {3.7~7.2}	0.29 {3.0}		0.66 {6.7}	0.72 {7.3}		
40BIRME55.5	0.92 {9.4}	0.41~0.86 {4.2~8.8}	0.34 {3.5}		0.81 {8.3}	0.87 {8.9}		
50BIRME51.5	0.29 {3.0}	0.12~0.24 {1.2~2.4}	0.069 {0.7}		0.19 {1.9}	0.25 {2.5}		
50BIRME52.2	0.39 {4.0}	0.17~0.33 {1.7~3.4}	0.12 {1.2}		0.28 {2.9}	0.34 {3.5}		
50BIRME53.7A	0.50 {5.1}	0.26~0.44 {2.6~4.5}	0.20 {2.0}		0.39 {4.0}	0.45 {4.6}		
50BIRME53.7B	0.61 {6.2}	0.30~0.55 {3.1~5.6}	0.25 {2.5}		0.50 {5.1}	0.56 {5.7}		
50BIRME55.5	0.79 {8.1}	0.36~0.74 {3.7~7.5}	0.29 {3.0}		0.69 {7.0}	0.75 {7.6}		
50BIRME57.5	0.92 {9.4}	0.41~0.86 {4.2~8.8}	0.34 {3.5}		0.81 {8.3}	0.87 {8.9}		
65BIRME53.7	0.41 {4.2}	0.17~0.35 {1.7~3.6}	0.12 {1.2}		0.30 {3.1}	0.36 {3.7}		
65BIRME55.5	0.55 {5.6}	0.26~0.49 {2.6~5.0}	0.20 {2.0}		0.44 {4.5}	0.50 {5.1}		
65BIRME57.5	0.73 {7.4}	0.36~0.67 {3.7~6.8}	0.29 {3.0}		0.62 {6.3}	0.68 {6.9}		

単独交互運転形 (60Hz)

型式	締切圧力 MPa {kgf/c m <sup>2</sup> }	減圧弁設定 圧力調整範囲 MPa {kgf/c m <sup>2</sup> }	圧力タンク 封入圧力 MPa {kgf/c m <sup>2</sup> }	圧力 センサ 型式	圧力センサ 設定圧力 MPa {kgf/c m <sup>2</sup> }		減圧弁 型式	圧力 タンク 型式
					ON	OFF		
25BIRME6.4S	0.27 {2.8}	0.11~0.22 {1.1~2.2}	0.059 {0.6}	PSS-1	0.17 {1.7}	0.23 {2.3}	BWN-40L	BT-10
25BIRME6.4	0.27 {2.8}	0.11~0.22 {1.1~2.2}	0.059 {0.6}		0.17 {1.7}	0.23 {2.3}		
32BIRME6.4S	0.21 {2.1}	0.11~0.15 {1.1~1.5}	0.059 {0.6}		0.098 {1.0}	0.16 {1.6}		
32BIRME6.6S	0.32 {3.3}	0.15~0.26 {1.5~2.7}	0.098 {1.0}		0.22 {2.2}	0.27 {2.8}		
32BIRME6.4	0.21 {2.1}	0.11~0.15 {1.1~1.5}	0.059 {0.6}		0.098 {1.0}	0.16 {1.6}		
32BIRME6.75	0.33 {3.4}	0.15~0.27 {1.5~2.8}	0.098 {1.0}		0.23 {2.3}	0.28 {2.9}		
32BIRME61.1A	0.50 {5.1}	0.26~0.44 {2.6~4.5}	0.20 {2.0}		0.39 {4.0}	0.45 {4.6}		
32BIRME61.1B	0.63 {6.4}	0.30~0.57 {3.1~5.8}	0.25 {2.5}		0.52 {5.3}	0.58 {5.9}		
40BIRME6.75	0.17 {1.7}	0.088~0.11 {0.9~1.1}	0.039 {0.4}		0.078 {0.8}	0.14 {1.4}		
40BIRME61.1	0.26 {2.7}	0.11~0.21 {1.1~2.1}	0.059 {0.6}		0.16 {1.6}	0.22 {2.2}		
40BIRME61.5	0.34 {3.5}	0.15~0.28 {1.5~2.9}	0.098 {1.0}		0.24 {2.4}	0.29 {3.0}		
40BIRME62.2	0.53 {5.4}	0.26~0.47 {2.6~4.8}	0.20 {2.0}		0.42 {4.3}	0.48 {4.9}		
40BIRME63.7A	0.64 {6.5}	0.30~0.58 {3.1~5.9}	0.25 {2.5}		0.53 {5.4}	0.59 {6.0}		
40BIRME63.7B	0.73 {7.4}	0.36~0.67 {3.7~6.8}	0.29 {3.0}		0.62 {6.3}	0.68 {6.9}		
40BIRME65.5	0.91 {9.3}	0.41~0.85 {4.2~8.7}	0.34 {3.5}		0.80 {8.2}	0.86 {8.8}		
50BIRME61.5	0.24 {2.4}	0.11~0.18 {1.1~1.8}	0.059 {0.6}		0.13 {1.3}	0.19 {1.9}		
50BIRME62.2	0.35 {3.6}	0.15~0.29 {1.5~3.0}	0.098 {1.0}		0.25 {2.5}	0.30 {3.1}		
50BIRME63.7A	0.46 {4.7}	0.21~0.40 {2.1~4.1}	0.15 {1.5}		0.35 {3.6}	0.41 {4.2}		
50BIRME63.7B	0.57 {5.8}	0.26~0.51 {2.6~5.2}	0.20 {2.0}		0.46 {4.7}	0.52 {5.3}		
50BIRME65.5	0.80 {8.2}	0.36~0.75 {3.7~7.6}	0.29 {3.0}		0.70 {7.1}	0.76 {7.7}		
50BIRME67.5	0.91 {9.3}	0.41~0.85 {4.2~8.7}	0.34 {3.5}		0.80 {8.2}	0.86 {8.8}		
65BIRME65.5	0.49 {5.0}	0.26~0.43 {2.6~4.4}	0.20 {2.0}		0.38 {3.9}	0.44 {4.5}		
65BIRME67.5	0.71 {7.2}	0.30~0.65 {3.1~6.6}	0.25 {2.5}		0.60 {6.1}	0.66 {6.7}		



並列交互運転形 (50Hz)

型式	締切圧力 MPa {kgf/c m <sup>2</sup> }	減圧弁設定 圧力調整範囲 MPa {kgf/c m <sup>2</sup> }	圧力タンク 封入圧力 MPa {kgf/c m <sup>2</sup> }	圧力 センサ 型式	圧力センサ 設定圧力 MPa {kgf/c m <sup>2</sup> }		減圧弁 型式	圧力 タンク 型式
					ON	OFF		
25B1PME5.4S	0.26 {2.7}	0.11~0.21 {1.1~2.1}	0.059 {0.6}	PSS-1	0.16 {1.6}	0.22 {2.2}	BWN-40L	BT-10
25B1PME5.4	0.26 {2.7}	0.11~0.21 {1.1~2.1}	0.059 {0.6}		0.16 {1.6}	0.22 {2.2}		
32B1PME5.4S	0.22 {2.2}	0.11~0.16 {1.1~1.6}	0.059 {0.6}		0.11 {1.1}	0.17 {1.7}		
32B1PME5.6S	0.35 {3.6}	0.15~0.29 {1.5~3.0}	0.098 {1.0}		0.25 {2.5}	0.30 {3.1}		
32B1PME5.4	0.22 {2.2}	0.11~0.16 {1.1~1.6}	0.059 {0.6}		0.11 {1.1}	0.17 {1.7}		
32B1PME5.75	0.36 {3.7}	0.15~0.30 {1.5~3.1}	0.098 {1.0}		0.26 {2.6}	0.31 {3.2}		
32B1PME51.1A	0.50 {5.1}	0.26~0.44 {2.6~4.5}	0.20 {2.0}		0.39 {4.0}	0.45 {4.6}		
32B1PME51.1B	0.60 {6.1}	0.26~0.54 {2.6~5.5}	0.20 {2.0}		0.49 {5.0}	0.55 {5.6}		
40B1PME5.75	0.18 {1.8}	0.088~0.12 {0.9~1.2}	0.039 {0.4}		0.078 {0.8}	0.14 {1.4}		
40B1PME51.1	0.29 {3.0}	0.12~0.24 {1.2~2.4}	0.069 {0.7}		0.19 {1.9}	0.25 {2.5}		
40B1PME51.5	0.36 {3.7}	0.15~0.30 {1.5~3.1}	0.098 {1.0}		0.26 {2.6}	0.31 {3.2}		
40B1PME52.2	0.55 {5.6}	0.26~0.49 {2.6~5.0}	0.20 {2.0}		0.44 {4.5}	0.50 {5.1}		
40B1PME53.7A	0.69 {7.0}	0.30~0.63 {3.1~6.4}	0.25 {2.5}		0.58 {5.9}	0.64 {6.5}		
40B1PME53.7B	0.77 {7.8}	0.36~0.71 {3.7~7.2}	0.29 {3.0}		0.66 {6.7}	0.72 {7.3}		
40B1PME55.5	0.92 {9.4}	0.41~0.86 {4.2~8.8}	0.34 {3.5}		0.81 {8.3}	0.87 {8.9}		
50B1PME51.5	0.29 {3.0}	0.12~0.24 {1.2~2.4}	0.069 {0.7}		0.19 {1.9}	0.25 {2.5}		
50B1PME52.2	0.39 {4.0}	0.17~0.33 {1.7~3.4}	0.12 {1.2}		0.28 {2.9}	0.34 {3.5}		
50B1PME53.7A	0.50 {5.1}	0.26~0.44 {2.6~4.5}	0.20 {2.0}		0.39 {4.0}	0.45 {4.6}		
50B1PME53.7B	0.61 {6.2}	0.30~0.55 {3.1~5.6}	0.25 {2.5}		0.50 {5.1}	0.56 {5.7}		
50B1PME55.5	0.79 {8.1}	0.36~0.74 {3.7~7.5}	0.29 {3.0}		0.69 {7.0}	0.75 {7.6}		
50B1PME57.5	0.92 {9.4}	0.41~0.86 {4.2~8.8}	0.34 {3.5}		0.81 {8.3}	0.87 {8.9}		
65B1PME53.7	0.41 {4.2}	0.17~0.35 {1.7~3.6}	0.12 {1.2}		0.30 {3.1}	0.36 {3.7}		
65B1PME55.5	0.55 {5.6}	0.26~0.49 {2.6~5.0}	0.20 {2.0}		0.44 {4.5}	0.50 {5.1}		
65B1PME57.5	0.73 {7.4}	0.36~0.67 {3.7~6.8}	0.29 {3.0}		0.62 {6.3}	0.68 {6.9}		

並列交互運転形 (60Hz)

型式	締切圧力 MPa {kgf/c m <sup>2</sup> }	減圧弁設定 圧力調整範囲 MPa {kgf/c m <sup>2</sup> }	圧力タンク 封入圧力 MPa {kgf/c m <sup>2</sup> }	圧力 センサ 型式	圧力センサ 設定圧力 MPa {kgf/c m <sup>2</sup> }		減圧弁 型式	圧力 タンク 型式
					ON	OFF		
25B1PME6.4S	0.27 {2.8}	0.11~0.22 {1.1~2.2}	0.059 {0.6}	PSS-1	0.17 {1.7}	0.23 {2.3}	BWN-40L	BT-10
25B1PME6.4	0.27 {2.8}	0.11~0.22 {1.1~2.2}	0.059 {0.6}		0.17 {1.7}	0.23 {2.3}		
32B1PME6.4S	0.21 {2.1}	0.11~0.15 {1.1~1.5}	0.059 {0.6}		0.098 {1.0}	0.16 {1.6}		
32B1PME6.6S	0.32 {3.3}	0.15~0.26 {1.5~2.7}	0.098 {1.0}		0.22 {2.2}	0.27 {2.8}		
32B1PME6.4	0.21 {2.1}	0.11~0.15 {1.1~1.5}	0.059 {0.6}		0.098 {1.0}	0.16 {1.6}		
32B1PME6.75	0.33 {3.4}	0.15~0.27 {1.5~2.8}	0.098 {1.0}		0.23 {2.3}	0.28 {2.9}		
32B1PME61.1A	0.50 {5.1}	0.26~0.44 {2.6~4.5}	0.20 {2.0}		0.39 {4.0}	0.45 {4.6}		
32B1PME61.1B	0.63 {6.4}	0.30~0.57 {3.1~5.8}	0.25 {2.5}		0.52 {5.3}	0.58 {5.9}		
40B1PME6.75	0.17 {1.7}	0.088~0.11 {0.9~1.1}	0.039 {0.4}		0.078 {0.8}	0.14 {1.4}		
40B1PME61.1	0.26 {2.7}	0.11~0.21 {1.1~2.1}	0.059 {0.6}		0.16 {1.6}	0.22 {2.2}		
40B1PME61.5	0.34 {3.5}	0.15~0.28 {1.5~2.9}	0.098 {1.0}		0.24 {2.4}	0.29 {3.0}		
40B1PME62.2	0.53 {5.4}	0.26~0.47 {2.6~4.8}	0.20 {2.0}		0.42 {4.3}	0.48 {4.9}		
40B1PME63.7A	0.64 {6.5}	0.30~0.58 {3.1~5.9}	0.25 {2.5}		0.53 {5.4}	0.59 {6.0}		
40B1PME63.7B	0.73 {7.4}	0.36~0.67 {3.7~6.8}	0.29 {3.0}		0.62 {6.3}	0.68 {6.9}		
40B1PME65.5	0.91 {9.3}	0.41~0.85 {4.2~8.7}	0.34 {3.5}		0.80 {8.2}	0.86 {8.8}		
50B1PME61.5	0.24 {2.4}	0.11~0.18 {1.1~1.8}	0.059 {0.6}		0.13 {1.3}	0.19 {1.9}		
50B1PME62.2	0.35 {3.6}	0.15~0.29 {1.5~3.0}	0.098 {1.0}		0.25 {2.5}	0.30 {3.1}		
50B1PME63.7A	0.46 {4.7}	0.21~0.40 {2.1~4.1}	0.15 {1.5}		0.35 {3.6}	0.41 {4.2}		
50B1PME63.7B	0.57 {5.8}	0.26~0.51 {2.6~5.2}	0.20 {2.0}		0.46 {4.7}	0.52 {5.3}		
50B1PME65.5	0.80 {8.2}	0.36~0.75 {3.7~7.6}	0.29 {3.0}		0.70 {7.1}	0.76 {7.7}		
50B1PME67.5	0.91 {9.3}	0.41~0.85 {4.2~8.7}	0.34 {3.5}		0.80 {8.2}	0.86 {8.8}		
65B1PME65.5	0.49 {5.0}	0.26~0.43 {2.6~4.4}	0.20 {2.0}		0.38 {3.9}	0.44 {4.5}		
65B1PME67.5	0.71 {7.2}	0.30~0.65 {3.1~6.6}	0.25 {2.5}		0.60 {6.1}	0.66 {6.7}		

・過電流設定値一覧

単位：A

相	出力 (kW)	50Hz		60Hz	
		200V	400V	200/220V	400/440V
単相	0.4 <sup>※1</sup>	7.1	—	6.9	—
	0.6 <sup>※2</sup>	6.6	—	6.2	—
三相	0.4	2.3	1.1	2.1/2.1	1.0/1.0
	0.75	3.9	1.9	3.6/3.4	1.8/1.7
	1.1	6.2	3.1	5.6/5.4	2.8/2.7
	1.5	6.4	3.2	6.2/5.6	3.1/2.8
	2.2	9.4	4.7	9.0/8.2	4.5/4.1
	3.7	15.2	7.6	14.6/13.4	7.3/6.7
	3.7 <sup>※3</sup>	15.2	7.6	—	—
	5.5	21.6	10.8	21.0/19.4	10.5/9.7
7.5	28.8	14.4	28.2/25.8	14.1/12.9	

※1 電圧は 100V です。

※2 電圧は 200V です。



















※3 65BIRME53.7,65BIPME53.7 の場合を示します。






















・チェックシート

点検項目	点検日	試運転								
			1	2	3	4	5	6	7	8
圧力スイッチ・圧力センサの作動確認										
始動圧力 (MPa)										
停止圧力 (MPa)										
始動間隔 (分/回)										
減圧弁の作動確認										
ポンプの回転方向										
軸封部の漏れ状態										
交互運転の確認										
異常音の有無										
配管等からの漏れの有無										
電動機フレーム温度										
ケーブル等の損傷の有無										
盤内の異常の有無										
電流値 (A)										
圧力タンク内圧 (MPa)										
受水槽水位の確認										
その他 ( )										

**注 記**

設備に適した吐出し量および吐出し圧力で運転してください。  
 (過小や過大運転は、騒音や振動の原因となります。また、無駄な電力を消費することになります。)

 <b>警告</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理はしないでください。感電・発火または異常動作・破損などにより、けがをすることがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポンプを分解・組立する時は、必ず電源スイッチを切ってください。自動運転などで、急にポンプが始動して、けがをすることがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分解・点検の際には、吸込、吐出し弁を閉じてケーシングドレンから排水し、ポンプ内の圧力上昇や負圧の発生が無いようにしてから、行ってください。この作業が不完全ですと、吸込と吐出しの圧力差により、ポンプが異常回転となり、ケーシングが破壊する恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポンプの運転中に、主軸などの回転部分には触れないでください。また、ポンプが停止中であっても電源スイッチが入っているときは、自動運転により急にポンプが運転をする場合がありますので、主軸などの回転部分には触れないでください。高速回転をしていますので、けがをすることがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電動機の結線部と制御盤の一次側及び二次側や、制御盤内の動力部機器の接続部・結線部に、ゆるみのないことを確認し、ほこりを除去してください。配線接続部のゆるみによる接続不良、端子部へのほこりの付着などを放置すると、発熱して、火災事故の危険があります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 樹脂部品は、現場で焼却しないでください。燃やすと、有害なガスを発生する恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当社純正以外の部品の取付けや改造は、行わないでください。感電・発火または異常動作・破損などにより、けがをすることがあります。また、正常な機能を発揮できない場合があります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 制御盤内には、電子機器を使用していますので、絶縁抵抗試験（メガータスト）や、耐電圧試験を行わないでください。電子機器が破損、あるいは発火する恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 絶縁抵抗値が 1MΩ 以下に低下した場合、すぐに電源スイッチを切り、ご注文先、もしくは当社に、点検・修理をご依頼ください。電動機が焼損したり、感電や火災を起こす恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポンプ・電動機・制御盤などの付近には、危険物や燃え易いものを置かないでください。発火したり延焼し、火災の恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験運転時は必ず水栓を開き、ポンプの口径分の水量（例 口径 50:50L/min）以上で運転してください。ポンプがエアロックを起こしたり、ポンプ内圧や温度が上昇し、ポンプが損傷する恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 吐出し弁を閉じたまま、ポンプを 1 分間以上運転しないでください。ポンプ内圧上昇や温度上昇により、ケーシングやプラグなどの破損、電動機焼損の恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通電状態にて、充電部には触らないでください。感電の恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 給水装置の取扱い及び施工は、質量や形状に配慮し、安全に作業してください。落下及びけがの危険があります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 製品の移動に際しては、吊上げ要領（注意銘板）などに従って、慎重に作業してください。落下及びけがの恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 吊上げ状態での使用及び作業は、危険ですので絶対に行わないでください。落下及びけがの危険があります。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電動機・制御盤には、水をかけないでください。感電・漏電・火災や故障の原因になります。</li> </ul>		



 <b>注意</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電動機・制御盤（操作部を除く）や凍結防止ヒータには、触れないでください。高温になっていますので、やけどの原因になります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電動機・制御盤に、毛布や布などをかぶせないでください。過熱して発火することがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運転を休止する場合は、ポンプ内や配管内の水を抜いて、開口部を遮蔽してください。滞留水が腐敗し、雑菌が流出する恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 休止後の運転開始時には、「据付」「運転」の項に従い、試運転を実施してください。ポンプの拘束、電動機焼損、空運転などの恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 空運転または、取扱い液中に空気を混入させないでください。ケーシング・軸受・軸封などが破損したり、揚水不能になる恐れがあります。また、ポンプが過熱し、やけどの原因になります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種切替スイッチのモードは、正しく設定してください。不動作による設備の2次被害や、故障の恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 据付や点検などの作業を行う前に、給水装置周辺を整理してください。滑ったり、つまずいたりして、けがをする恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 制御盤内に、物を入れしないでください。火災が発生する恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電動機の絶縁抵抗試験を行うときは、配線を制御盤から外し、電源電圧に合った絶縁抵抗計を用いて絶縁抵抗を測定し、電動機リード線とアース間が5MΩ以上あることを確認してから、配線を行ってください。電動機が焼損したり、感電や火災を起こす恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電動機の端子の接続が、緩んだり外れたりしていないかを確認してください。一箇所でも緩んだり外れたりしていると、欠相運転(三相電動機の場合)になり、電動機が焼損します。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 配線接続作業などで、取り外した端子カバーは、必ず元通りに取付けてください。感電やけがの恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電気配線を傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、振ったり、束ねたり、また、重い物を載せたり、挟み込んだりしないでください。火災・漏電の原因となります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電子サーマルの設定は、正しく設定してください。誤動作や故障の恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 導電部の接続ネジの締め付けは、確実に行ってください。発熱や故障及び焼損の恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポンプ・電動機・制御盤などの機器の上には、乗らないでください。製品の破損や、滑ったり、踏み外したりして、けがをする恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 消耗部品は、定期的に変換を行ってください。劣化・摩耗したままご使用になると、水漏れや焼付き・破損などの重大故障につながります。定期点検、部品交換などは、ご注文先、もしくは当社にご依頼ください。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電動機の分解が必要なときは、ご注文先、もしくは当社に必ず点検・修理をご依頼ください。誤った作業により、事故が発生する恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 配管内の水を排水後は、電源を絶対に入れないでください。ドライ運転となり、ポンプが破損したり、過熱してやけどの原因になります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期的に、保護継電器の動作確認を行ってください。事故時に正常動作せず、感電や故障の恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 故障と思われる場合は、すぐ電源スイッチを切り、ご注文先、もしくは当社に必ず点検・修理をご依頼ください。誤った操作や作業により、事故が発生する恐れがあります。</li> </ul>	

<b>注 記</b>	据付後、不要となりました梱包材、及び点検・修理などで廃品となりました潤滑油脂類や、部品などは、専門の業者へ処置を依頼して戴くなど、法規及び御使用地域の規制に従って、処分してください。
	給水栓（弁）を開いていない場合でも、ユニットが始動停止を繰り返す場合は、配管などの設備からの漏れが考えられますので、設備の点検をしてください。ポンプが発熱したり、エアロック・断水・機器の損傷などの恐れがあります。
	ご使用環境に応じた期間で、補修塗装を実施してください。ネジ部、防錆剤を塗布した加工部、錆止め塗装部などは、高湿度・結露・被水などのご使用環境で、錆を発生する場合があります。



## 1. 日常の点検

日常の点検の際、特に次のような点にご注意ください。

- (1) 始動圧力、停止圧力、電流、振動、騒音などが平常と極端に異なる場合は、事故の前兆ですので、  
8「故障の原因と対策」の項を参照し、早目に対処することが大切です。そのために、運転日誌をつけてください。
- (2) 本装置のポンプ外被が手で触れられないほど熱いときは、運転を停止して点検してください。  
（電動機部分は、高温になりますので、注意してください。）
- (3) 電動機の絶縁抵抗を、1ヶ月に1回測定してください。絶縁抵抗値は、5MΩ以上あれば運転に支障がありませんが、5MΩ以上あっても急に低下し始めている場合は、異常と考えられますので修理が必要です。（1MΩを下回る場合は、危険ですので、運転を止めて修理してください。）
- (4) 軸封メカニカルシールタイプのため、正常ならばほとんど水漏れはありません。運転開始時、少々の水漏れが認められる場合でも、その状態で運転をしばらく維持させると、水漏れが減ります。それでも、漏れが止まらない場合は、運転を停止して点検ください。
- (5) 圧力タンク内の水を完全に抜いた状態で、タンク内の封入圧が、規定通りの圧力かどうか確認してください。必ず6ヶ月に1回点検してください。

 <b>注意</b>	・ 圧力タンク内の封入圧は、必ず6ヶ月毎に点検してください。圧力タンク内の封入圧が低下すると、ダイヤフラムが破損するなど、重大な事故が発生する恐れがあります。	
	・ 圧力タンクは、3年毎に交換してください。 受水槽の洗浄液・消毒液は、絶対にユニット内に入れないでください。取扱液の残留遊離塩素濃度が、仕様より高い場合など、交換の目安より早期に、ダイヤフラムが劣化する場合があります。	

- (6) 制御盤内のリレーなどの接点、端子などのゆるみ、水滴などの混入がないか確認してください。
- (7) 配管からの水漏れ、配管の損傷がないか確認してください
- (8) 圧力スイッチや、圧力センサ等が故障するとポンプが停止しない場合があります、ポンプ及び配管内の温度や、圧力が上昇するなどの不具合が発生する恐れがありますので、定期的な点検の実施をお願いいたします。

 <b>警告</b>	・ 圧力スイッチや、圧力センサは、定期的に点検してください。故障するとポンプが停止しなくなり、ポンプ内圧が上昇し、ケーシング等が破壊する恐れがあります。	
---	--	---

- (9) 配管類、架台に錆等の発生がないか、確認してください。錆等が発生している場合は、再塗装をして、保守管理をしてください。

<b>注 記</b>	・ 銘板、警告ラベル・注意ラベル類は、使用者への禁止・注意事項などを訴えるものです。見えるよう、きれいに取り扱ってください。
------------	--

## 2. 圧力スイッチ（圧力センサ）の再調整について

圧力スイッチ（圧力センサ）の再調整は、給水装置を運転して、下記のような問題があった時だけ行ってください。必要のない時は変えないでください。

### (1) ポンプが自動運転にて停止しない場合

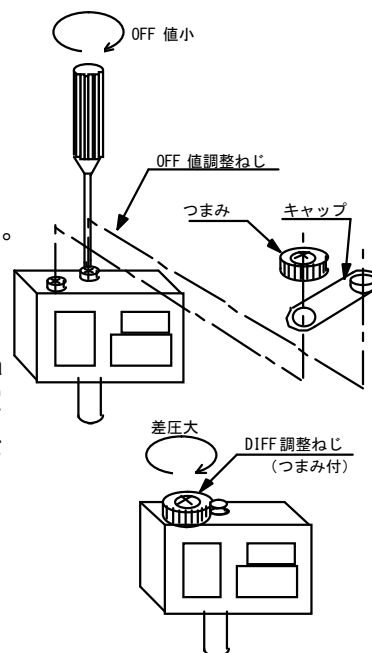
#### (a) 単独運転の場合

停止圧力がポンプ締切圧力より高い場合、停止しません。その場合、OFF 値調整ねじを、少し右方向に回してください。

#### (b) 単独交互運転及び並列交互運転の場合

工場出荷時、各機種ごとに締切圧力より 0.049MPa {0.5kgf/cm<sup>2</sup>} 低い圧力を停止圧力とし、制御盤に設定を行っています。（**6**「運転」7. 項の自動給水装置仕様一覧表をご参照ください）

設定が必要な場合は、**6**「運転」6. 項をご参照ください。





### (2) ポンプが始動しない又は給水栓から水がとぎれている場合

#### (a) 単独運転の場合

始動圧力が吐出し揚程より低い場合、始動しません。その場合、DIFF 調整ねじを左方向に回してください。

#### (b) 単独交互運転及び並列交互運転の場合

始動圧力が吐出し揚程より低い場合、始動圧力キーにて始動圧力を上げてください。設定後、再確認してください。（**6**「運転」4, 5 項を参照）

 <b>注意</b>	<p>・ 圧力センサの始動圧力を変更する場合は、必ず減圧弁も再設定してください。</p> <p>減圧弁の設定圧力は、始動圧力より 0.029MPa {0.3kgf/cm<sup>2</sup>, 3m} 高い値にして下さい。</p> <p>始動圧力のみを変更したり、減圧弁の設定を誤ると、誤動作し、給水装置が故障する場合があります。</p>	
---	--	---

## 3. 減圧弁の再調整について

減圧弁の再調整は、給水装置を運転して、下記のような問題があった時にだけ行ってください。必要の無い時は変えないで下さい。

### (1) 設定圧力が違う場合

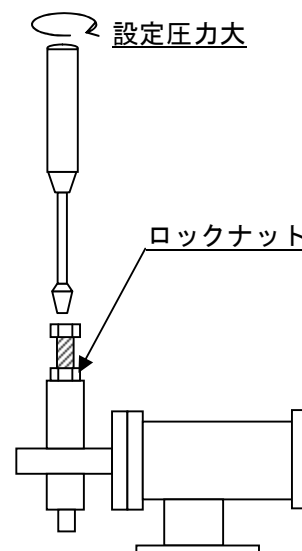
設定圧力は減圧弁の調整ねじを左方向に回せば低くなり、右方向に回せば高くなります。

### (2) 吐出し圧力が一定にならない場合

減圧弁の逃し配管に異物が詰まっている可能性がありますので、除去作業の後、再設定、再確認してください。

※減圧弁の設定圧力は、始動圧力より 0.029MPa {0.3kgf/cm<sup>2</sup>, 3m} 高い値にして下さい。

※減圧弁の設定値を変更した場合は、必ず始動圧力と停止圧力を、合わせて変更してください。

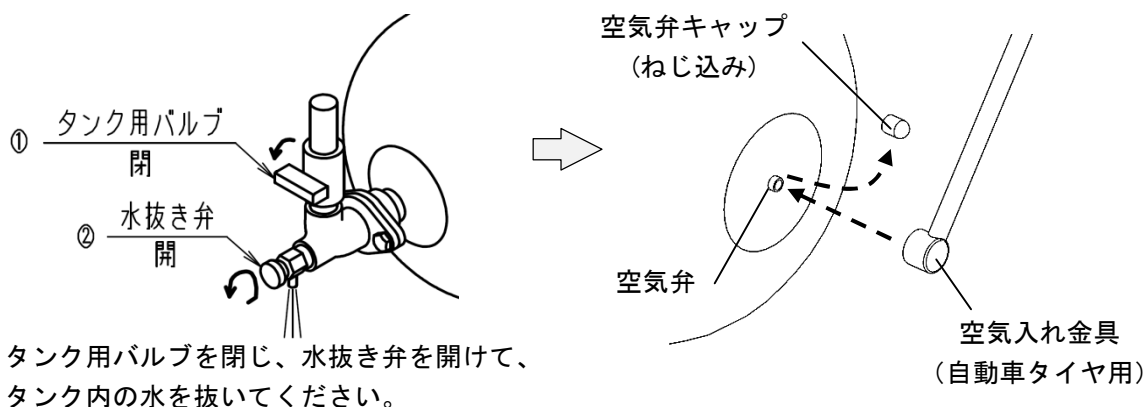


<b>注 記</b>	<p>・ 始動圧力及び減圧弁の設定圧力を変更する場合は、減圧弁設定圧力調整範囲内で変更願います。</p>
------------	--

#### 4. 圧力タンクの空気充填方法

圧力タンクの封入圧力が不足していると、ポンプがインチングを起こすなどの現象を引き起こします。また、そのまま使用し続けると、内部のダイヤフラムが損傷します。圧力タンクは、必ず定期的（6ヶ月に1回）に点検を行い、封入圧力が不足している場合は、次の方法にて空気充填を行ってください。

- (1) タンク用バルブを閉じ、水抜き弁（ドレン配管を施工している場合はドレン弁）を開け、圧力タンク内を完全に排水する。
- (2) タンクの空気弁キャップをはずして、自動車用タイヤ空気入れ金具を使用し、コンプレッサ又は自動車用タイヤ空気入れにて、油の混入がないように注意して、銘板値に記載されている圧力にしてください。



#### 5. 給水装置の長期運転休止時、保管時について

⚠ 警告	・ 運転を休止する場合は、電源スイッチを切ってください。絶縁劣化し、感電や漏電・火災の原因になります。	⚠
⚠ 注意	・ 冬季などで凍結の恐れがある場合は、保温・ヒータ取付けや、排水などにより、凍結防止を行ってください。ポンプ停止中に、内部の水が凍結して、ポンプや配管が破損する恐れがあります。	⚠

冬期などで給水装置の停止中に、内部の水が凍結すると、ポンプなどが割れることがあります。必ず保温するか排水してください。

## 6. 消耗品について

### (1) 交換時期

次の現象・状態が認められた場合、又は交換時期の年数に達した場合、下記に従い交換してください。

消耗部品	圧力タンク	プリント基板
現象・状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適正封入圧力が維持できない場合。</li> <li>・ポンプ停止時間が、極端に短くなった時。</li> <li>・封入圧力点検時に、空気室に水分が見られた場合。</li> <li>・取扱液の遊離残留塩素濃度が大きい場合。*</li> </ul>	各運転の動作が不確実の場合
交換時期	3年毎	5年毎

※圧力タンク内部ゴムが早期に劣化しますので早めに交換してください。

### (2) 交換時期の目安

消耗部品	圧力スイッチ	電磁接触器	減圧弁
現象・状況	動作が不確実の場合	接点の荒損がひどく、異常動作した場合	動作が不確実の場合
交換時期の目安	3年	3年	3年

消耗部品	メカニカルシール	密封玉軸受（電動機内蔵）	Oリング
現象・状況	目視できるほど漏れる場合	過熱したり、異常音が発生した時	分解点検時のたび
交換時期の目安	1年または連続 8000 時間	3年または連続 10000 時間	—————

消耗部品	逆止め弁	圧力センサ
現象・状況	動作が不確実な場合	動作が不確実な場合
交換時期の目安	3年	3年

上記交換時期は正常に使用され且つ、定期的に点検された時の標準値です。



(3) 消耗部品の型式及び寸法を次に示します。

(圧カスイッチ, 圧カセンサ, フロースイッチ, 圧カタンクの型式については 6 「運転」 7. 項の自動給水装置仕様一覧表をご参照ください)

逆止め弁 (プレートチェック弁)

: PLCV-40 (口径 25~50 の 3.7kW 以下の機種)

: PLCV-50 (5.5kW, 7.5kW 機種及び、65BI (R/P) MD53.7)

ガラス管ヒューズ

:  $\phi 5.2 \times 20L$ , 250V・1A 2個 (3.7kW 以下機種)

:  $\phi 5.2 \times 20L$ , 250V・1A 1個、3A 1個 (5.5kW、7.5kW 機種)

口径	出力 [kW]	電磁接触器 ※2		メカニカル シール	O リング*					密封玉軸受 (電動機内蔵)		
		(富士)	(春日)		ケーシング カバー	シール リング	中間 ケーシング	ガイト ヘッド	フランジ	負荷側	反負荷側	軸受ケ リス
25/32	单相 0.4	SC-03 AC100V	MUF10-4 140	$\phi 15$	$\phi 3.1$ $\times 150$	75x6.3	使用 せず	$\phi 3.1$ $\times 125$	$\phi 3.1$ $\times 55$	6205VDW C3	6203VDW C3	ウレア系耐熱 ケ リス
	0.4	SC-03 AC200V	MUF7 240							6205VDW C3	6203VDW C3	
	单相 0.6	SC-03 AC200V	MUF10-4 240							6306VDW C3	6303VDW C3	
	0.75	SC-03 AC200V	MUF7 240							6205VDW C3	6203VDW C3	
	1.1									6306VDW C3	6303VDW C3	
40/50	0.75	SC-03 AC200V	MUF7 240	$\phi 20$	$\phi 3.1$ $\times 175$	$\phi 5.7$ $\times 120$	$\phi 3.1$ $\times 160$	$\phi 3.1$ $\times 145$	$\phi 3.1$ $\times 70$	6205VDW C3	6203VDW C3	ウレア系耐熱 ケ リス
	1.1									6306VDW C3	6303VDW C3	
	1.5									6306DDW	6304DDW	
	2.2	SC-0 AC200V	MUF10-4 240							6306DDW	6304DDW	
	3.7	SC-5-1 AC200V	MUF18 2							6307DDW	6305DDW	
40/50 /65	5.5	SC-N1 AC200V	MUF25 2	$\phi 25$	$\phi 3.1$ $\times 200$	$\phi 6.98$ $\times 139$	$\phi 3.1$ $\times 180$	使用 せず	使用 せず	6308DDW	6306DDW	リチウム系耐 熱ケ リス マルテンフ SRL (共同 油脂製)
	7.5	SC-N2 AC200V	MUF35 2							6308DDW	6306DDW	
	65	SC-5-1 AC200V	MUF18 2							6207DDW	6305DDW	

※ 1 32BISME61.1A, 32BIRME61.1A, 32BIPME61.1A は不要です。

※ 2 制御盤内電磁接触器メーカーを確認し、選定願います。

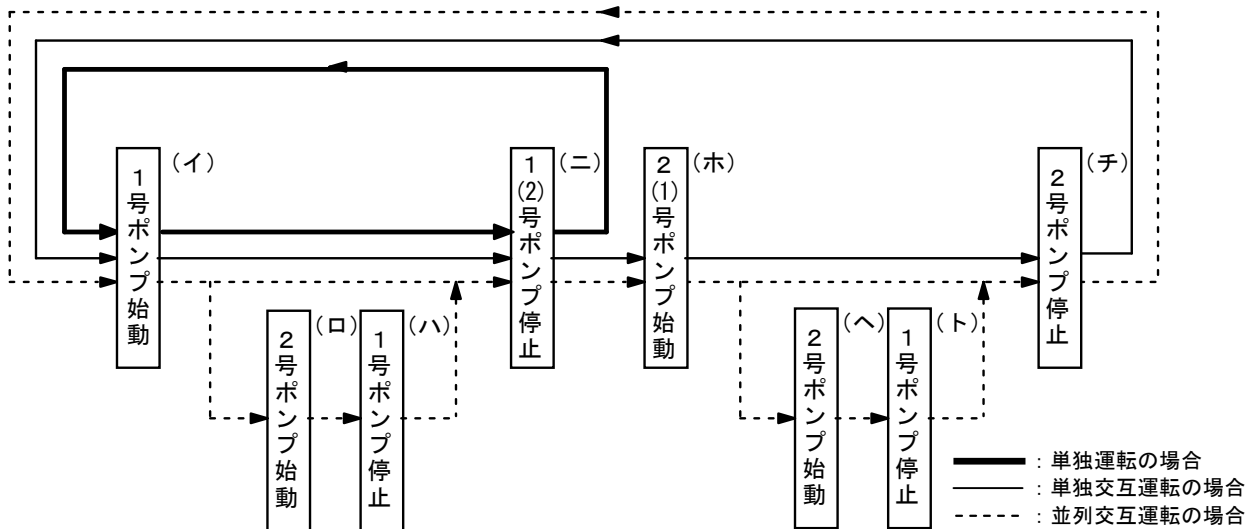
(富士) …富士電機型式

(春日) …春日電機型式

## 8 故障の原因と対策

現象	原因	対策
給水栓を開いても水が出ない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポンプの呼び水不足</li> <li>・電源が入っていない</li> <li>・電源スイッチが停止になっている</li> <li>・運転キーが押されていない</li> <li>・バルブが閉じている</li> <li>・始動圧力設定値が低い</li> <li>・受水槽が満水となっている</li> <li>・逆相になっている（3相の場合）</li> <li>・電源が欠相となっている</li> <li>・電圧が低い</li> <li>・結線の不良又は断線</li> <li>・ポンプ、電動機の不良</li> <li>・減圧弁の不良</li> <li>・制御盤（電磁接触器等）の不良</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポンプに呼び水を行う</li> <li>・電源を入れる</li> <li>・電源スイッチを運転にする</li> <li>・運転キーを押す</li> <li>・バルブを開く</li> <li>・設定値を上げる</li> <li>・受水槽に水を補給する</li> <li>・3相のうち2相を入れ替える</li> <li>・欠相原因を除去する</li> <li>・定格電圧にする</li> <li>・点検、修理する</li> <li>・点検、修理する</li> <li>・点検、修理する</li> <li>・点検、修理する</li> </ul>
過負荷故障している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電圧が低い、又は高い</li> <li>・欠相運転している</li> <li>・過負荷となっている</li> <li>・電動機の不良</li> <li>・制御盤の不良</li> <li>・逆相になっている（3相の場合）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定格電圧にする</li> <li>・欠相原因を除去する</li> <li>・ポンプを点検する</li> <li>・点検、修理する</li> <li>・点検、修理する</li> <li>・3相のうち2相を入れ替える</li> </ul>
過熱故障している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圧力センサ（圧カスイッチ）の不良</li> <li>・制御盤の不良</li> <li>・減圧弁の不良</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点検、修理する</li> <li>・点検、修理する</li> <li>・点検、修理する</li> </ul>
給水栓を閉じてもポンプが停止しない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運転モードが試験になっている</li> <li>・停止圧力設定値が高い（単独運転型の場合）</li> <li>・ポンプの性能低下</li> <li>・逆相になっている（3相の場合）</li> <li>・電源が欠相となっている</li> <li>・電圧が低い</li> <li>・送水管からの水漏れ</li> <li>・圧力センサ（圧カスイッチ）の不良</li> <li>・減圧弁の不良</li> <li>・制御盤の不良</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運転モードを自動にする</li> <li>・設定値を下げる</li> <li>・点検、修理する</li> <li>・3相の内2相を入れ替える</li> <li>・欠相原因を除去する</li> <li>・定格電圧にする</li> <li>・点検、修理する</li> <li>・点検、修理する</li> <li>・点検、修理する</li> <li>・点検、修理する</li> </ul>
水を使用しないのにポンプが作動する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・逆止め弁からの水漏れ</li> <li>・圧力タンクの不良（三方弁のチェック）</li> <li>・圧力センサの不良</li> <li>・圧力設定の不良</li> <li>・制御盤の不良</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点検、修理する</li> <li>・点検、修理する（三方弁を開ける）</li> <li>・点検、修理する</li> <li>・圧力設定をやり直す</li> <li>・点検、修理する</li> </ul>
ポンプがインテングを起こす	<ul style="list-style-type: none"> <li>・始動圧力と停止圧力の圧力差が小さい</li> <li>・圧力タンクの封入圧力の低下</li> <li>・減圧弁の設定圧力が高い</li> <li>・配管による圧力脈動の発生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定値を変更して圧力差を大きくする</li> <li>・圧力タンクに空気を補充する</li> <li>・設定圧力を下げる</li> <li>・配管を直す（空気溜り等をなくす）</li> </ul>
給水栓から水が途切れる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・始動圧力設定値が低い</li> <li>・圧力タンク接続部のバルブが完全に開いていない</li> <li>・ポンプの性能低下</li> <li>・給水装置の容量不足</li> <li>・減圧弁の設定値が低い</li> <li>・減圧弁の不良</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定値を上げる</li> <li>・圧力タンク接続部のバルブを全開にする</li> <li>・点検、修理する</li> <li>・計画を再検討する</li> <li>・設定値を上げる</li> <li>・点検、修理する</li> </ul>
圧力が一定にならない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・減圧弁の逃がし配管又は小穴の詰まり</li> <li>・ピストンリングの磨耗</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・詰まりを取り除く</li> <li>・交換する。</li> </ul>
交互運転をしない（単独運転形を除く）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポンプ選択がNo. 1かNo. 2になっている</li> <li>・制御盤の不良</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポンプ選択を交互又は並列交互にする</li> <li>・点検、修理する</li> </ul>
並列運転しない（並列交互運転形）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・始動圧力設定値が低い</li> <li>・配管の損失が大きい</li> <li>・制御盤の不良</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定値を上げる</li> <li>・計画を再検討する</li> <li>・点検、修理する</li> </ul>
2台同時に始動する（並列交互運転形）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・始動圧力設定値が高い</li> <li>・制御盤の不良</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・始動圧力設定値を下げる</li> <li>・点検、修理する</li> </ul>

1. 運転方式



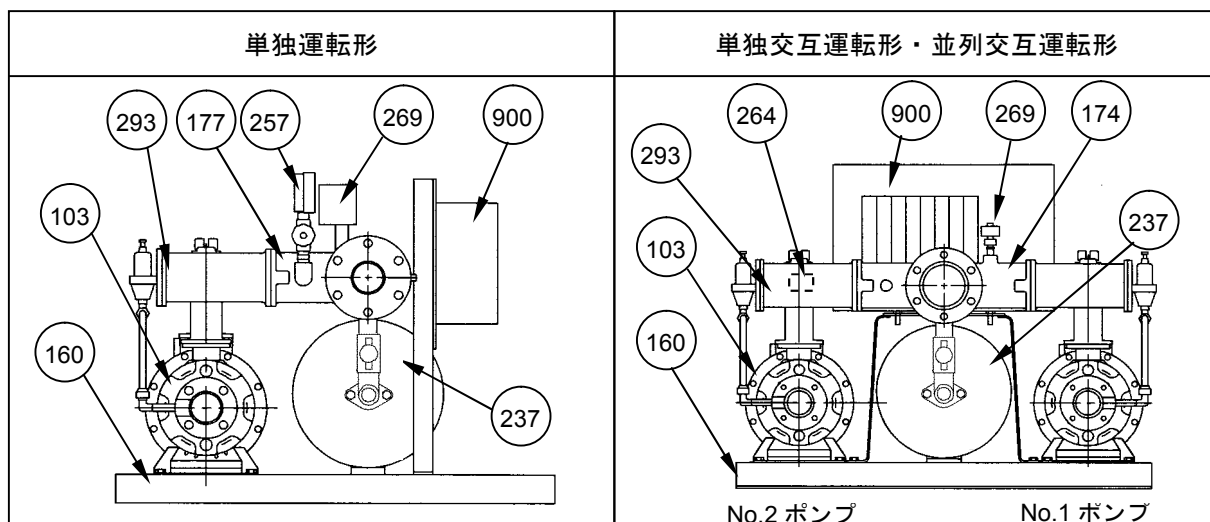
A. 単独運転形及び単独交互運転形の場合 ( )内は単独運転形の場合

- (イ) 水を使用すると配管内圧力が低下し、圧力センサ（圧カスイッチ）が作動して、1号ポンプが始動します。
- (ニ) 水を使用なくなると圧力が上昇し、1号ポンプが停止します。
- (ホ) 再び水を使用すると圧力が低下し、圧力センサが作動して、2号ポンプが始動します。
- (チ) 水を使用なくなると圧力が上昇し、圧力センサが作動して、2号ポンプが停止します。
- ・単独運転形は（イ）⇒（ニ）を繰り返します。
- ・単独交互運転形は（イ）⇒（ニ）⇒（ホ）⇒（チ）を繰り返します。

B. 並列交互運転形の場合

- (イ) 水を使用すると配管内圧力が低下し、圧力センサが作動して、1号ポンプが始動します。
  - (ロ) さらに使用水量が増加すると、再度圧力センサが作動して、2号ポンプも始動します。
  - (ハ) 使用水量が減少すると圧力が上昇し圧力センサが作動して、1号ポンプが停止し、1台のみの運転に戻ります。（ポンプ2台運転になると、2分間はポンプ2台の強制運転を行います。）
  - (ニ) 水を使用なくなると、圧力が上昇し、2号ポンプが停止します。
  - (ホ) 再び水を使用すると圧力が低下し、圧力センサが作動して、1号ポンプが始動します。
  - (ヘ) さらに使用水量が増加すると、再度圧力センサが作動して、2号ポンプも始動します。
  - (ト) 使用水量が減少すると圧力が上昇し、圧力センサが作動して、タイマー作動後、1号ポンプが停止し、1台のみの運転に戻ります。
  - (チ) 水を使用なくなると、圧力が上昇し、2号ポンプが停止します。
- 以上の（イ）⇒（ロ）⇒（ハ）⇒（ニ）⇒（ホ）⇒（ヘ）⇒（ト）⇒（チ）を繰り返します。

## 2. 部品名称



900	制御盤	1
293	減圧弁	1
269	圧カスイッチ	1
257	圧力計	1
237	圧カタンク	1
177	吐出し曲管(逆止め弁内蔵)	1
160	ユニットベース	1
103	ポンプ・電動機	1
番号	部品名	個数

900	制御盤	1
293	減圧弁	2
269	圧カセンサ	1
264	温度センサ	2
237	圧カタンク	1
174	吐出し曲管(逆止め弁内蔵)	1
160	ユニットベース	1
103	ポンプ・電動機	2
番号	部品名	個数

### 注 記

・ 構成部品の材料名を明記した図面を当社にて用意していますのでご用命ください。

## 3. 標準附属品

相フランジ（ボルト付）・・・・・・2組（単独運転形）

3組（単独交互運転形・並列交互運転形）

## 10 保

## 証

当社はこの給水装置について次の保証をいたします。ただし当該保証は日本国内で使用される場合に限ります。

(1) この製品の保証期間は下記によります。本保証は、正規の日常点検、保守を行った場合に限ります。

①一般品（BLマーク証紙付認定品以外）

保証期間	納入日から1年間
------	----------

②BLマーク証紙付認定品

部位	保証期間
下記以外（圧力タンク、バルブ類、計器類及びセンサー類など）	納入日から2年間
電動機、ポンプ本体、制御盤 (陸上ポンプの単独運転方式のもの、水中ポンプ、当社とのメンテナンス契約が行われていない場合は2年間です。)	納入日から3年間
配管類、架台	納入日から5年間

(2) 保証期間中、正常なご使用にもかかわらず当社の設計・工作等の不備により故障、破損が発生した場合は、故障破損箇所を無償修理いたします。この場合、当社は修理部品代および修理のための技術員の派遣費用を負担いたしますが、その他の費用の負担は免除させていただきます。

(3) ただし、以下のいずれかに該当する場合の故障・破損の修理および消耗品\*は、有償とさせていただきます。

- (a) 保証期間経過後の故障、破損
- (b) 正常でないご使用、または保存により生じた故障、破損
- (c) 火災、天災、地震等の災害および不可抗力による故障、破損
- (d) 当社指定品以外の部品を使用した場合の故障、破損
- (e) 当社、および当社指定店以外の修理、改造による故障、破損

\*消耗品とは、**7** 5. 項に示している部品など当初から消耗の予想される部品のことです。

(4) 保証についての当社の責任は上記の無償修理に限られるものとし、その他の費用の負担、損害についての責任は免除させていただきます。

(5) 補修用部品の保有期間は製造中止後7年間です。

(BLマーク証紙付認定品は製造中止後10年間です。)

## 11 修理・アフターサービス

お買い上げの給水装置の修理・保守はご注文先、もしくは当社にご用命ください。

この製品のご使用中に異常を感じたときは、直ちに運転を停止して故障か否か点検してください。

(**8** 「故障の原因と対策」をご参照ください。)

故障の場合はすみやかに本取扱説明書末尾記載の当社窓口へご連絡してください。

ご連絡の際、銘板記載事項（製造番号、機名など）と故障（異常）の状況をお知らせください。

### 注 記

・ 据え付け後不要となりました梱包材および点検、修理等で廃品となりました潤滑油脂類、部品などは専門の業者へその処置を依頼してください。

その他にお買い上げの製品について不明な点がございましたら、ご遠慮なくお問い合わせください。